

Ⅸ 研究の実際（授業デザイン・リフレクションシート等）

全体研修会（提案授業） 3年B組 社会科授業デザイン

授業者 渡慶次 靖

- 1 日 時 平成25年4月24日（水）6校時
- 2 単元名 明治維新～大政奉還～
- 3 目 標 改革の特色を説明できる。
- 4 授業の流れ
 - (1) 目標確認（コの字）
 - (2) 共有の学び（小グループ）
武家諸法度を読ませ、内容を読み取らせる。
 - (3) ジャンプの学び（小グループ）
五箇条の御誓文の原文を提示し、内容を読み取らせる。
 - (4) 全体でのすり合わせ（コの字）
新政府は、どのような国づくりをしようとしたのか？



全体研修(提案授業) 3年B組 社会科授業リフレクション

平成 25 年 4 月 24 日(水) 授業者 渡慶次 靖

1 学級の様子について(学級担任: 神山康平先生)

学級では女子が元気で中心となって、学級全体を盛り上げている。授業の中でも各グループを見渡した時に、女子を中心に対話がスタートしている。

数名は学び合い、話し合いに参加できない生徒がいるのが現状である。それを授業、学活等でサポートできたらいいなと思っている。学級全体としてはとてもいい学級で、協力し合えるととてもすばらしい学級だと感じている。

2 授業の振り返り(授業者: 渡慶次靖先生)

時間が足りなかった。とてももったいないと思った。展開しながら「あいやー」と思った。2年の時に勉強した既習事項を呼び起こしながらイメージできる様に、うまい具合にサポートできればよかった。全体的にうまくいかずにもったいないと思った。

授業としては、新政府の改革方針が江戸と 180 度違うということを新旧対照させて、どんな国づくりをこれから進めていくのかを資料を通して学ばせたかったが、そこまでいかなかったので、次の時間はこれを土台にもう一回取り上げてみようかと考えている。

いつもK君とMさんをどのようにして教材に向かわせようかと考えている。K君に関しては、今見ている範囲では突っ伏すことはあまりない。Oではないけど、ほとんどない。どちらかというところ、普通に意欲的に学習に参加して口数もあるので、そんなに気にならない。

Mさんに関しては難しいものがあって、Mさんへのアプローチ、教材をどうしようかと悩む。この2人がうまい具合にくらいついていけば大概の生徒は大丈夫だと思う。

授業の中でちょっと学びが停滞するとおしゃべりが出たり、学習内容に関係ないおしゃべりが出てくることがある。このことに気をつけながら、準備をしてしっかり考えたり、学ばせたりという雰囲気を作れたらいいと思った。

子どもたちが言っていることを見取れなかったこともたくさんあるので、先生方に聞きながらつなげていきたいと思います。

3 研究協議(参観者から: 割り当て班, 教科, 本校勤務年)

(1) 吉武佳穂先生(A班, 理科, 3年目)

今さっき出ていたK君がいる班。誰か1人がずっとしゃべるのではなくて、全員が1番最初の課題が出たときにすぐに知っている漢字から、「結婚したらダメって書いてあるから、これって武家諸法度じゃない」と最初にSさんが言っていた。知っている単語を見つけて、お互いに顔を見ながら上手につないでいた。K君は3人に比べたらちょっと声が少なかったが、お互いに顔を見ながらできていた。H君がK君の顔を見て声をかけたら、そこからK君が話しだして、メモを積極的に紙に書いて参加していたのでよかったと思う。

2つめの課題は文字を読むのが難しかったみたいで、「漢字は何て書いてるのかな」と集中していて、その話でA班はストップしていた。

(2) 稲嶺尚幸先生(A班, 理科, 1年目)

お互いの意見をよくかわしていた。「これ、こうだからこうじゃない」「じゃ、これこうなるからこうじゃないかな」とグループの仲間に問いかけているのが見られたのでよかったなと思った。課題が難しかったのか、Sさんが話をそれそうになった時にH君が「それは、ちょっと置いといて」と軌道修正できていた。

また、「明治時代だから武家諸法度か?」「鎖国ってなんだったかな?」というのを自分達で考えながら自分達で振り返りができていたので、とてもよかったと思いました。

(3) 與那嶺紀子先生(B班, 家庭科, 1年目)

Sさんがプリント見たときに「社会わからなーい」と言っていたけど、Eさんが一生懸命わかる漢字を読んでいたら、一緒に考えたりしているのが見えた。最初はEさんがいっぱい発言していると感じたんだけど、「わからないから教えて」と隣のJ君に言ったら、J君の言葉が少なかったけど、「うん、これは禁止だからだめじゃない」と教えたりしていたり、読めなくても一生懸命読める単語を見つけたり、先生が「文章が難しいから言葉でもいいよ」と言ったら、1つ1つの単語の意味を書いたりしていた。こういうのが学び合いなのかなと思い、こういう授業は初めて見たので勉強になりました。

(4) 東江敏也先生 (B班, 社会科, 1年目)

チェックポイントの時に、生徒が解いている間、渡慶次先生は手に何をメモしていたのですか？
→正解の生徒に発表させる為。

BグループはEさんを中心にグループ活動をしていた。最初の武家諸法度の時も最初に、Eさんが訳して、J君は一生懸命口数少なく考えて、Sさんがヒントを言った。「結婚するのはだめ？」って言った時にEさんが「じゃこれ、武家諸法度じゃない？」誰かがヒントを出して「これじゃない？」という学び合いを初めて見たんだけど、これが学び合いなんだと改めて実感できた。

(5) 松田尚人先生 (B班, 社会科, 2年目)

EさんがリードしながらSさんが疑問を投げかけた時に、この2人がJ君に問いかけて、いい感じで3名での学びが発生していた。意味があるグループ活動だった。3人が学習からそれることもなく、コミュニケーションを取っていて「これはこうじゃない？」「私はこう思うよ」と議論しながら、3人で1つ1つ解説したところは答えを書いていた。字がはっきりと見えない所があって、難しくて読めない所があった時につまづきがあったが、所々で靖先生の一言でつながって、ただ難易度が高かったが、ジャンプや背伸びの課題ももう少しでつながっていたので、もうちょっとで解けていけるということまで見えた。難易度の高いすごい授業だなと思った。

(6) 伊藝正乃先生 (C班, 国語科, 1年目)

初めの課題のプリントを渡されると4人が自分の知っている漢字を見つけたり、あるいは参勤交代という文字を見つけて「こんなだったんじゃない？」過去に習ったことを呼び起こして話を進めていた。Aさんが「一万石という言葉の意味がわからない」と投げかけるとR君が「こういうことじゃないか」とフォローをしていた。2つめのジャンプ課題の所でとても難しい課題だったが、R君がみんなが見やすい位置に置いていて(写真①)、それにみんなが同じ視線でこれは何かな、とお互いに話をしていた。レベル10は結局誰もわからなくてレベル8までいっていくつか読める漢字が出てきたけど、R君が「漢字がわかってても意味がわからないな」と言ったときに、ちょうど靖先生が「教科書にレベル5の問題があるよ」と言ったら4人とも一斉に教科書を開いて、声に出して確認している様子があったのですごいなど。この誰もわからない課題を最初に出していたから、みんなが教科書のレベル5の問題を確認したいという気持ちになったのかなと思った。



(7) 比嘉司先生 (C班, 保健体育科, 2年目)

最初のプリントをやるときにK君がSさんの答えをのぞきながら一生懸命に書いていた。あんなK君を見たのは始めてだったので感動した。K君が起きて笑顔でしゃべっているのは、なかなか見れないので、社会の授業は楽しいんだと思った。みんなでしっかり意見を聴き合って、話し合いをしていると感じた。初めR君がリーダーになって、ボードを立ててボソボソとしゃべるが、みんなが聴き合っていた。まとまるということとはなかったが、最後のレベル5に移って文章の意味が分かったとき、Aさんが「じゃ、これ後ろの方に載っているんじゃない？」と教科書をめくり始めた。意欲をもって探そうとしていたのがすごいと思った。ここでNさんが「みんなまとめて書こう」と言ったらみんな黙って書き始めたので学び合っているなと感じた。

(8) 佐藤繁先生（D班，国語科，2年目）

このグループの一番のキーはR君だと思うんだけど、最初の課題の時にIさんが座っていてその隣にR君が座っているけど、全然目を合わせなくて真ん中に持って行って話が始まって、メガネははずして鉛筆を置いたまま上を向いていて、3人との会話が全然ないまま続いた。3人が話しかけるわけでもなく3人がR君をどうやって扱うかわかっていると思った。不思議なことにジャンプの課題になって難しい字を先生が見せた時、グッと入って机に置かれた瞬間こうやって見て、こうやって指を指して、何か言いたそうにしているけど言葉にならない。あの状況を見た時にジャンプの力がすごいなと思った。この3人はR君のことを無視しているわけではなく、時々「なー」と言って声をかけるんだけどそれに対してR君が何かしゃべるわけではないけど、見えない学びを感じて、すごいなと思った。ジャンプってすごく重要だと思った。

その後もこの体勢のままずっとこの子たちの顔をみながらR君はこのままの状態。これが目線を外れても飽きることなくずっとこの状態のまま聴いている。これが学びなのかなと思った。

先生が教科書（教材）に目を向けさせた瞬間の4人の目が「ここにあったのか」と。それまで探求して頭をいっぱいに使ってわからない、わからないときにヒントがこの中にあると思ってパッと開ける仕草が素敵だなと思った。一生懸命になっているので、ここの部分（写真）しか見えない。だけど、ここ（写真の隣）に文章が書かれてあって、武家諸法度の意味が書かれているのにも気づかない。この子達の頑張り、集中力をすごく感じた。これが「学び」なんだと再確認できた。

(9) 砂川貴代先生（E班，養護教諭，3年目）

共有課題の時にM₁さん、H君中心に進んでいて、K君が途中で発言が多くなって一緒に考えていた。M₂さんは無駄な話をするということではなかったが目がうつろな感じであくびをしたりしていた。課題には目をやっていて、やっと発言したと思ったら「今、なんて言った？」「なんて書いてるの？」と聞いて、一生懸命書こうと努力しているのは見られた。

ジャンプの時は、最初盛り上がり過ぎて途中で止まった時に、靖先生が「ちょっと書いてごらん」とアドバイスした時に、M₁さんが1つ答えを見つけたら、K君も乗ってきて「自分にもわかる答えがあるよ」と話をしだした。後半は発言が少なくなってきたけど、じっくり考えているなと思った。難しいからこそ発言は少ないけど、一生懸命考えているなという様子が見られた。M₂さんとK君は終わり頃は少し集中は切れていたけど、無駄な話もなく一生懸命考えていたと思った。

(10) 神山康平先生（E班，数学科，1年目）

学級の中ではこのグループが一番ネックになっていると感じていて、特にM₁さんは元気があってリーダーシップを取ろうとするが、誰かに「教えて？」ではなくて課題をパッと見せられたときに、ボソボソとしたことから広がって、そのスタートはやっぱりM₁さんで自然とボソッと書いたことに対してH君が乗かって、それにK君が乗かってプリントに書き込んでいくことが始まったので、「教えて？」という質問からの学びではなく、つぶやきからの学び合いが広がっていくのはこのことだと思った。K君は最初あまり関心がなかったけど、M₁さん・H君が入ってきたら、途中から関心を示し始めてグループ活動が始まってきた。M₂さんは入れないでボーっと見ているような状態だったが、最後の方で靖先生がアプローチかけて他の3人に対するのとは別の視点で、「M₂さんは今言ったことに対してどう思う？」とM₂さんが答えられそうなアプローチの仕方をしたら「自分もそう思う」と言った。学び合いの中でつまづきのある子達へのアプローチのかけかたが勉強になった。

(11) 比屋根渚先生（F班，英語科，1年目）

まず、課題を見たときに私もできないな、難しいなと思った。1人でもしこの紙を見たら諦めると思う。このグループでも「だめだー」という言葉がSさんから出てきて、このときに個人だったらここで終わるはずだけど、今回Eさんが「じゃ、もう1回最初から見てみよう」ともう1回最初から見て難しいと思ったけど、これが誰も置いていかれない課題であり、みんなが発言で

きるチャンスを持っているし、どんどん先につながっていく課題なのかなと思った。

課題設定が難しいなと感じて、靖先生の発言が少なかったのに、あれだけみんなが聴き合える（言い合える）授業がつかれるのがすごいと思った。私もどんどんチャレンジしたいと思った。

(12) 津波古健先生（F班、音楽科、3年目）

リーダーをしていたのはEさんで、だけど最初はSさんが見てわからないと思った瞬間、パッと2人に見せた。Eさんが進めるけど、K君が入りきれない。同じテニス部の2人だけの会話だったけどEさんがフッとK君に振った時に、「こんなじゃないか」と言ったときに学び合いが出た。ほっとかない、引っ張っていくというのが表れた。残念ながら彼が発言したのはこの時だけだったけど、プリントを触りながらやっていたので置いていかれたくない、中に入るぞという努力は感じた。

(13) 波照間香織先生（F班、数学科、3年目）

最初の復習の時、淡々と黙々と普通の表情だったけど、靖先生が武家諸法度の解説が難しそうなお課題を出したときに3人は笑顔になってとても喜んでいて。最初の印象的な表情だった。読めなくなるとだんだん表情も暗くなるが絶妙なタイミングでレベル8になった。また「お！」という気持ちが沸き起こってきた。

だけど、またわからなくなっていてEさんが途中で「頭が痛くなってきた」と言ったが、いいタイミングで靖先生が来て質問したり、「よく考えたね」「たいしたもんだ」と言われEさんがまた笑顔になった。先生と生徒の関わり、うまく学びの中に入っていくタイミングが勉強になった。

4 授業改善に向けて（渡慶次靖先生）

授業の形式形態にとらわれずにとりあえずは個別、グループへの介入をしないでおこうと思って、とりあえずこれで通してみようかな、このグループでどうなのかなというのに比重を置いてグループ活動的なものを入れた。

ボードは子供たちの勉強の跡が残るようにすれば次につなげられると思って書かせながら作業をさせた。たいていのグループが自分たちの言葉にはできていないけれども、なんとなくわかっているような、あと一息で文章化までできるんじゃないかというのが、あのパネルの中にあるので、そこもまた授業につなげていけたらいいと思っている。

課題としては画像も悪かったけど、まずはわからないものと思って、通常低いところから上に上げていくのを今回は高いところから階段を下げていって、また振り返らせて高いものと対比するという形をやってみた。これが良かったかどうかわからないけど、いろんなことを試しながらやっていこうと考えている。

5 指導助言

(1) 久高利美子教頭

最初の提案授業で先生方のイメージが持てたんじゃなかったかを感じた。私も子供たちを見ていてさすが3年生、落ち着いていて、この授業スタイルをととても身につけているという印象だった。この学び合いのいいところだなと思うのが、生徒が「弓を馬に乗って、パッ！」という言葉が発した時、これは日本語ではなく言葉として相手に伝わる言葉ではないのだけど、靖先生がそれを受け取って対応しながらやるんだけど、書いている言葉を自分の言葉で言い換えることができる、それをさせるのがこの学び合いのいいところなんだというのがこの授業でよく分かった。自分の言葉で言い換えることができるか（活用できてるか）という場面なので、そのところが「あっ、いいな」と思っていた。

課題にぶつかった時に自分が持っているどの根拠（情報）を引き出して会話していくかというところで、先生方が「関わり」というところで研究協議できていてこのスタイルもいいと思うが、これから2回目、3回目と回数を増やしていくと、どこで学び合いが発生したのかというところ

の意見交換がどんどん出てくると、たぶんこの研究協議が深まると思った。

佐藤先生が言った「ジャンプ課題の時にみんなの目つきが変わっていた」とか「R君がジャンプに飛びついていて」ということを聞くと「この課題はOKだったんだな」と授業者も思うし、そこで学び合いが発生したかという感想をそれぞれが言うとおもしろいんだな、と思って聞いていた。

それから、司先生が言っていた「K君は自分の授業ではこうだから、K君の最初のこの姿が印象的でした」というところで、それぞれの授業で気になっている子どものことを挙げながらやっていくと靖先生は「K君は社会は好きだから、ここで引き上げよう」という視点をお互いで持ちながらできるんだと思いつきながら聞いていた。

(2) 神元勉校長

①机の並べ方について→机がきれいにくっついているかどうか。鞆が横に下げられていないか。鞆はロッカーに整理整頓すること。(写真②)



②ロッカーについて→今はスタートしたばかりだからこんな状態だけど学習用具を持ち帰ることができなくなると3学期には目も当てられなくなる。こんなに物があると鞆は入らない。(写真③)



③黒板の前にいらぬ机を置いたりしてバリケードを作らない。(写真④)



④必要なものだけを机の上に置いて、必要ないものは机の中に入れて、共有の空間をしっかりと取ってあげる。(写真⑤)



⑤復習プリントは必要であったか？僕は必要ではないと思っている。なぜなら、今日の学習内容にほとんど関連していない。今からやろうとする共有課題に必要な材料を確認するためのものだったらいい。プリントをしながらお互いに「わからないところ教えて」というのがあまり見られない。ただ、自分だけでやっている。K君がのそきながらやるくらい。

⑥導入について→導入に10分かかっている。7分以内には共有課題に入った方がいいと言われているのが、10分も前時の復習をすると子どもたちは飽きてくる。極力、共有課題には5分くらいでストンと入ってほしい。

⑦プリントを解き終わったらその場で綴らせる。綴れない子がまだいる。その場で綴らないとこのプリントが紙飛行機になる。丁寧に穴を開けてあげるとか、ノートに貼るんだったら糊をしっかりと準備してその場で貼らす。

⑧教師はどんと構える→一生懸命学び合いをしているのだから、教師は前でドンと構えておく。班に任せて全部見渡して、「あ、あの班盛り上がっていないな」という班に支援に行けばいい。教師が歩き回りすぎるとかえって邪魔をすることになる。折角グループで学び合っているのに先生がちょっかいを出すと思考が止まったり、学び合いが止まったりする。本当に支援が必要な生徒やグループへのケアだけでいい。もっと子どもを信用する。

- ⑨共有課題が終わって先生が「前を向いて」という時に、前を向いている子が少ないので、「体を向けて聴く」ことを徹底して欲しい。
- ⑩できるだけ授業には具体物、半具体物を提示すると4名がモノに集中する。
- ⑪男子1人、女子2人の3名グループ。男子1人ではダメ。女子は1人でいい。男子2人女子1人。女子は3名でもいい。男子を1人にすると学びに参加しにくい。女子は1人でもしっかりとした子であれば、女子1人、男子3名でも大丈夫。男子は必ず複数。
- ⑫生徒が発表しているんだけど、ほとんど発表者の方を向いていない。教師は前に座って、生徒の発言やつぶやきをしっかり聴き、生徒と生徒、生徒と教材とを「つなぐ」「もどす」ということをすればいい。ここで「〇〇さんどう思う？」と切り出す。最初のうちは訓練だから「〇〇さんのところを見て聞いてあげてね」という指示も出しながら、「今の意見に対して〇〇さんはどう思う？」と他の生徒とつないだり、教科書にもどしたりという仕事をここでやればいい。もう少しドンと構えて最後もこっちに座って、教師の仕事である「聴く」「つなぐ」「もどす」という役割をやってほしい。そうしないと形はコの字でグループを入れたけれども、学び合いにならないという場面が出てくる。3年生は2年目なので子どもたちは慣れてきている。あとは教師の力量。教師のしかけ1つでグンと伸びる。そのへんを勉強してほしい。
- ⑬あまりしゃべり過ぎない。歩き回らない。テンションを上げない。子どもを信用する。子どもの言葉でまとめる。説明したがない。教師の言葉でまとめない。子どもの間違いから発展する学びもあるから、間違いを取り上げて、それを学びの広がりにつなげればいい。
- ⑭私は初任だから私は2年目だからではなく、みんなスタートしたばかりだから経験年数は関係ない。

(3) 宮城尚志指導主事

- ①今日よかったのは課題設定。公開授業というのは構えるものじゃない。学びへの関心を示すのと小さな感情。
- ②「聴き合う」ができていない。尋ねるはできている。言葉が出ているのに言葉がどんどん重なっている。小学校1年生は言葉が重ならない。言葉が重ならない「聴き合う」を是非つくってほしい。
- ③先生が歩く度に学びが切れる。せっかく話し合っているのに、生徒は「先生」と言う。いなければ自分たちで学び合いが深まった。学び合っている時は放っておく。佐藤先生と津波古先生が話していた場面はたぶん見れてないと思う。なぜか？気づかずに他のところの相手しているから。座っておけば見れる。明らかにケアが必要なのはR君とMさんだった。R君が乗ったのがジャンプの課題のあの場面だった。そういった場面を見るためには、座って全体を見渡さないといけないと思った。
- ④真面目な教師ほど、わかっているかを確かめたい。それはやらないでいい。わかっているかどうかは彼らの対話から読み取る、聴き取るイメージでやっていこう。
- ⑤やたらと言わせよう、言わせようとしなくていい。対話レベルでいい。「わからなかったらきいてごらん」「聞こえた？」とつなぐという感じでいい。それで充分。そうしたら静かな授業ができていく。
- ⑥時間で決めない→あと1分、あと30秒、と時間で決めない。教師のしっかりとした自分たちの目で見取る。今日も後半うるさくなってきていた。うるさくなってきたときはチョコレートの話とかラーメンの話とか、課題に関係のないことになってきた。その時はボリュームが大きくなってくる。一旦切る。時間をあてにしない。どこで切って戻したりするかを教師の見取りですること。間違ってもいい。時間に縛られると「その時間内にできなかった自分は？」ってなる。私たちの目指す子どもから離れていってしまう。
- ⑦いい時期に授業を見せ合えたことはよかった。

学年研修会① 1年B組 音楽科授業デザイン

授業者 津波古 健

- 1 日 時 平成25年5月9日（木）3校時
- 2 単元名 国頭中学校校歌
- 3 ねらい 発声の難しい部分を探し出し、工夫して発声できる。
- 4 授業の流れ
 - (1) 校歌斉唱（全体）
 - (2) 共有の学び「探してみよう」（個→小グループ）
 - ① 個人で歌唱困難な箇所に線を引いた後、グループで意見の交流
 - ② 難所への対策を考え、それを意識して校歌の練習
 - (3) ジャンプの学び（全体）「高音や低音へのチャレンジ」
 - (4) 全体でのすり合わせ（全体）
発声の難しい部分を工夫して、校歌を斉唱する。



学年研修会① 1年B組 音楽科授業リフレクション

平成25年5月9日 授業者：津波古 健

1 学級の様子について（学級担任：稲嶺尚幸先生）

今日は、体調不良が4名いた。学級の雰囲気は、頑張っているのかなと思うところもあるが、身なり等で少し気の緩みが出てきているので注意をしながら様子をみていきたい。学級では女子が人前にでて発表が出来ない年頃なのか、歌が歌えない、声が出せないというのは仕方が無いのかなと思ったが、男子は男子で何も考えていないのか恥ずかしがらずに裏声も出していたので良かったんじゃないかなと思った。

2 授業の振り返り（授業者：津波古健先生）

まず、緊張するだろうという前提で、いかに緊張させないかという所に重点をおいて授業を進める事を心がけた。思春期であるのでなかなか発表が出来ない、自分を出せない所もあるが、細かい音楽の活動や技術的な指導がほぼ無い状態の音楽専科のいない（極）小規模の小学校から集まってきて、つまり、初めて専門的に歌うので、声を出すことより、まずはどうやって声を出すのかを探ることから始めていくことにした。デザインシートにもあるが、『探してみよう』としか書かなかったのは、それだけで『何を探すんだろう？』と生徒を7割くらいは引きつける事が出来るんじゃないかと思う。まずは、個人で始めて、小さくピアノで旋律を弾いたら案の定『トゥルルルル〜』と声が出てきて、1回目の意見交換、そして2回目といったんだけど、子ども達が一番怖いのは、自分が合っているかが不安なので、まずはその不安を取り除きたいというねらいもあった。ジャンプの課題の高音へのチャレンジでは、失速で着席させない、たとえば、私の過去の失敗で『はい、立って』といって出来たら座ると言うふうにしたら出来る子がどんどん座っていった残った子が声を出しずらくなるので、それよりはざわついた中でやった方が隠れられる、不安でひとりぼっちにならないように、着席をさせないようにした。これをくり返しながら自分の声を探していった、時間がかかっても大丈夫だと思わせるようにする。そうやって今の2年生も3年生もやってきた。あとは、班内の話し合いも結構良かったんじゃないかなと思う。後は、周りの意見も聞くようにするといいいんじゃないかと思う。

3 研究協議（参観者から）

(1) 與那嶺紀子先生

私が観たグループは、Aさん、Bさん、CさんのグループとDさんEさん、Fさんのグループで、最初のグループは、Aさんがリードして「ここのところどんなだった？」などと聞いたりしていた。Bさんは、声をだしたり大きな声では歌いずらそうで、「6年生の時はみんなが歌っていたから、歌いやすかったね。男子が結構大きな声で歌ってくれたから、つられて歌いやすかったんだよね」などと話していた。「大きい声を出したら、高い声ができるんだよね」と話していた。Dさんのグループは最初話し合いがなかなかできなくて静かにしていて、Fさんが「上を向いたら高い声ができるんじゃない？」と言って、みんなで上を向いたりして考えていました。どちらかと言えばこの

グループは、一人一人を考えてぼそって言う感じでした。最初は、もっと恥ずかしがるかなと思ったけどみんな一生懸命頑張っているなと思いました。

(2) 稲嶺尚幸先生

僕は、1番～3番のグループと4番～7番のグループを観ていたんですが、1番～3番は、課題をもらってすぐに「どこが難しいんだろう」と線をなかなか引けなくて、4番から7番のグループがバンバン意見が出ていて、それを聞いて1から3番のグループも意見がでてきて、こういうのも良いんじゃないかなと思いました。美しい声というのに1～3番が反応して「高い声が美しいの？低い声は美しい声はないの？」という意見があって面白いなと思いました。4番から7番までのグループも座っていましたが、どんな風にしたら高い声ができるかというので、背伸びをしたら出るんじゃないかということでみんなで背伸びをされていて、高い声を出すのが恥ずかしいとかではなくて、しっかり参加しているなと思いました。また、全員の自己評価をみるとみんな二重丸の花丸がついていたので、本人達も達成感があるんだなと思いました。

(3) 玉城拓也先生

初めの頃は、恥ずかしいのか声も小さかったけど、だんだん声も出るようになってきたし、後半になるにつれてだんだん声も大きくなってきたので、話し合って意識してきたんじゃないかなと思いました。

(4) 伊藝正乃先生

私が観ていたグループは、G君、H君、I君のグループを観ていたんですが、G君がムードメーカーになっていて、Hの発言にもGが「お～」とか「わ～」とかいって、Iはあんまりしゃべらなかつたけど、Gが「こんなじゃん」「あんなじゃん」といって声かけをしていました。このグループでは、どんなしたら高い声ができるかを話し合ったときに、背伸びをしたりしたら出るんじゃないか？という意見をGが言ったら、Hが「中学生にもなって背伸びするのか」と言ったりして、Gが音楽はリズムじゃないか？体も揺らしてリズムをとるでしょ？と話しをしていました。そして2回目の時は背伸びをして歌っていました。もう一つの班は、初めはそれぞれで書いていて、途中、Jがなかなか書けなかつたけど、Kのをのぞき込んだり、Lの書いているものを観ながら、Lの意見をとって書いていました。テンポ良く歌う、リズム良く歌う、丁寧に歌うなどそれぞれが意見を書いていて、班で歌っているときは、その意見を意識しながら歌っているのかなというのが見えました。最後に全体で歌うときにも、意識して歌っていて声も出ていて、どのように歌うかと言う課題もよかったのかなと思いました。

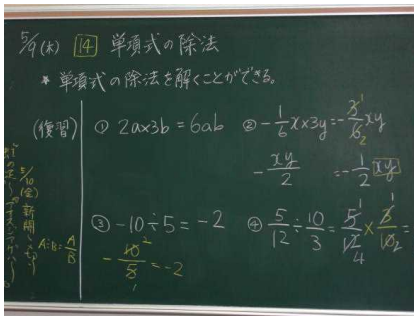
4 授業改善に向けて（津波古健先生）

まずは、教材研究からかなと思った。個に応じたというか、どの部分で生徒がつまづいているのか、26名しかいないので把握しないといけないのかなと思った。今日、ちょっとこだわりすぎて、話し合いを長くさせてしまったけれど、子ども達の中から出た答えを、そのまんま、不正解ではないので使っても良いのかなと思った。そして、出来るだけ自分でまとめたくないの、授業のまとめですね、出来るだけ各班で意見を言わせて、その意見に対して別の班が意見を言えるような授業作りをしていきたいと思う。そして、最終的には、教材研究をしっかりと、教師自身がもっと明確な物をもっていないといけないなと思った。準備不足だったと思うので、しっかり授業の準備をして挑めたらいいのかなと思った。

学年研修会① 2年A組 数学科授業デザイン

授業者 波照間 香織

- 1 日 時 平成25年5月9日（木）4校時
- 2 単元名 単項式の除法
- 3 ねらい 単項式の除法を解くことができる。
- 4 授業の流れ
 - (1) 目標の確認と前時の復習（コの字）
 - (2) 共有の学び（小グループ）
教科書P21問3の問題を解く
 - (3) ジャンプの学び（小グループ）
教科書P21問4，P22問5にチャレンジ
 - (4) 全体でのすり合わせ（コの字）
間違いやすい問題を全体で共有



学年研修会① 2年A組 数学科授業リフレクション

平成25年5月9日 授業者：波照間 香織

1 授業の振り返り（授業者：波照間香織先生）

この学年は、正負の加減法を解けない生徒が多く、4月は1年の復習からやっていった。昨日から単項式の乗法に入っているが、正負の加減法よりもうまくなっているので、今日の除法も大丈夫だと思い進めていった。なので、復習は最小限にしてすぐに今日の本題に繋げられるようにした。

今日は文字が入った除法はどのように計算すればよいか、というのが大きな課題であるが、実はすぐにできると思っていた。しかし、悩んでいるグループが多かったので楽しくできた。

今私が一番気をつけているのが、教師のテンションを下げることで、小さな声でボソボソとしゃべることである。しかし、授業が楽しくなると、だんだん声が大きくなってしまふ。今日もグループ学習で生徒が解き方を発見したり、楽しそうに盛り上がっていたり、できないなぁと悩んでいるのを見て、私自身も声が大きくなってきたかもしれない、と振り返って反省した。普段、計算に取り掛からない子も伸び伸びとやっていて、自分で仲間に説明するくらい、活き活きしていたのでよかった。そして、基本問題は全員がクリアできたのが授業として成功かな、と思った。

問4、問5は分数問題で苦手意識の強い生徒が多いので、どうなるかと思ったが、意外とチャレンジしているグループが多かったので安心した。

2 研究協議（参観者から）

東江敏也先生

前時の復習の時に、香織先生はすぐに終わらせたいと言っていたが、早く問題を解いて暇をしている生徒がいた。そういう時は、机間支援の際に計算過程までをちゃんと書いている生徒に黒板に解答を書かせてもよかったのかな、と思った。あと、Rさんの姿勢に目がいけていないのが気になった。

共有の学びの時は、I君、T君、Yさんのグループを見ていたが、最初の学びの時はI君を中心に話を進めていた。途中でボードを出された時にT君が解答したが、それにYさんが不満を持っていて、他の3名がYさんに教えている雰囲気があった。

ジャンプ課題が始まる前に尚志先生が「T君、私に難しい問題を作ってごらん」と言っただけで作った問題をみんなで解いていた。その時、1つの問題を4人が必死に解いていた。この時、みんな集中していたのでよかった。

その後のジャンプ課題もいい感じでボードを見ながら解いていた。T君が一番に課題を終わらせた。Yさんがまだできていなくて、「たぶんこれじゃない？」と言ったら、T君が「これ間違っているよ。俺が教えるか」と言った。しかし、T君だけ答えが違って、Yさん、I君、Nさんはみんな答えが一緒だった。T君がボードで説明している時に、計算過程で間違いに気づいていて、その時に学び合いが発生していた。だから、課題の提示もよかったと思う。

3 授業改善に向けて（波照間香織先生）

敏也先生がRさんの姿勢が気になった、と言っていたが、今日Rさんは体調不良で保健室に行っていた。この時間も休もうとしていたが頑張って参加していたので、私はそれを評価したいと思った。しかし、伏せている時は声かけをして励ますようにした。Rさんは普段、苦手な数学にがんばって取り組もうとしている姿勢がみられる生徒である。

授業改善に向けての課題は、早く終わった生徒への対応をもう少し考えないといけない、と思った。そして、みんなが学び合えるような課題を選定していく必要がある。

あと、間違えてもいいんだと安心できる雰囲気作りと教師のテンションを下げる努力をこれからも続けていきたいと思った。

学年研修会① 3年B組 国語科授業デザイン

授業者 佐藤 繁

- 1 日 時 平成25年5月9日（木）5校時
- 2 単元名 「みどり色の記憶」あさの あつこ
- 3 ねらい 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、自分の考えを持つ。
- 4 授業の流れ
 - (1) 全文を読む（コの字）
 - (2) 共有の学び（個→小グループ）
 - ① 感じたことや疑問に思ったことなどの箇所に線を引き、コメントを書く。
 - ② 自分の感じたことや疑問に思ったことなどをグループで交流する。
 - (3) ジャンプの学び（小グループ）
作者はなぜ「みどり色の記憶」という題名にしたのか？
 - (4) 全体でのすり合わせ（コの字）



学年研修会① 3年B組 国語科授業リフレクション

平成25年5月9日（木）授業者 佐藤 繁

1 授業の振り返り（授業者：佐藤繁先生）

- (1) 学習に向かって頑張ろうとする気持ちがあった。
- (2) 読みの工夫をやったのは子ども達を集中させる為。全文を読ませる。今日で4～5回目である。
- (3) 課題追求については、思った以上に生徒は線を引いていた。線を引いたところを起こしてあげられなかった。しかし、題名に注目して欲しかったので、そちらの方を授業の中心とした。

2 研究協議（参観者から）

(1) 神山康平先生

- ① 全文を早く読む。Mが一生懸命読みの練習をしていて、よかった。全文は読む必要がなかったのではないかな。
- ② Mが生き生きと発言していた。「緑にはいろんな色がある」→「自然」という言葉が出た。気づいて欲しかった。
- ③ <質問>自分が読んだところに興味があるけど、スタートで取り組めない子の手立てはどうするのか。

(2) 渡慶次靖先生

- ① 表情を見るという視点に立った。MがRに話しかけ、指で字を追いつながりながらスタートから学びあっていた。音読を避けないで、しっかり出来るようにさせたことが、つながった。
- ② Mが読んでいた。手で追っていた。読んでいたのを止めたら、Mがふてくされていた。→やったのという思いがそこにはあった。その次でトライする場面があった→安堵感。リカバリされている。やはり、ついて行けない生徒に手立てが必要。
- ③ 次の展開でYがH、EがIの所に行っている様子。教えてと体が行っている様子。テキストを下に置いて、地べたに座って没頭する。テキストに入っている。Eは本人が言えたときにガッツポーズをしていた。やった感があるのだな。
- ④ Kはずうっと追っていた。Kへの教師の「すごいなあ」のふれあいで顔が一変した。Kもずうっと見ていた。この子なりの進化があった。設定がよかった。

(3) 吉武佳穂先生

- ① みんなで音読するのが新鮮。本と対話する。他と対話する。最後まで国語をしていた。とても楽しかった。RがMに次どうぞというしぐさをやった。すばらしかった。疑問が出ていた。C「もう終わりなの」という発言。もっとみんなの発言が出てくるのだろう。
- ② <課題追求2>みどりがひらがなののは「小さいときからの感じだけど、みどりが段々大きくなっていく木のイメージがあった」の発言が出た。最後の鐘が鳴るときまで考えている。教科書めくってMは考えている姿があった。

(4) 砂川貴代先生

子ども達の表情、Mの生き生きした表情が見られた。

3 自由発言

(1) 佐藤繁先生

<質問に対する答え>手立てはない。思考を切らさないように。生徒から発したものを通して、「ああ、こうやるのか」と感じてもらえればよい。皆さんの生徒の洞察から、生徒が何を考えているのかがすごく分かった。もっと生徒の様子をとらえられるよう努力していきたい。

(2) 渡慶次靖先生

このクラスの温かく笑ってあげられる雰囲気が良い。

(3) 神山康平先生

Kはふりがなを振っていた。

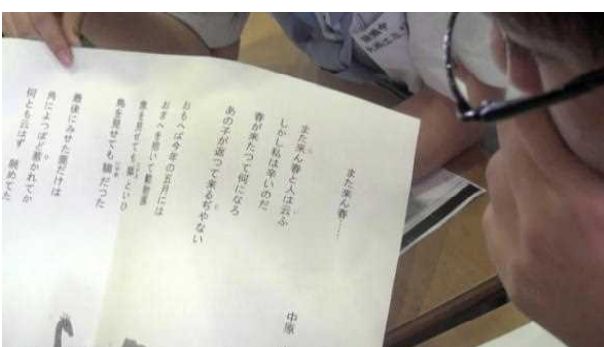
(4) 佐藤繁先生

話の内容が分かっていないのが3割から4割はいる。何とか寝ないで読ませる方法はないかを考えている。

自主公開授業研究会(提案授業) 3年A組 国語科授業デザイン

授業者 佐藤 繁

- 1 日 時 平成25年5月24日(金) 5校時
- 2 単元名 「月夜の浜辺」 中原中也
- 3 目 標 文脈における語句の使い方などに注意して読み、作品の世界を想像できる。
- 4 授業の流れ
 - (1) 目標の確認(課題提示)(コの字)
 - (2) 共有の学び(コの字)
疑問に思ったところ、気がついたところに線を引く。
 - (3) 読み深め(コの字→小グループ) ※国語科では「ジャンプ」の用語を使用しない。
作者にとってのボタンの意味を考える。作者の心の状態を別の詩から読み取る。
 - (4) 全体でのすり合わせ(コの字)
「作者にとってボタンとはどういう意味だろうか」を交流する。



自主公開授業研究会(提案授業) 3年A組 国語科授業リフレクション

平成25年5月24日(金) 授業者 佐藤 繁

1 授業の振り返り(授業者:佐藤 繁先生)

今日の題材は教頭先生と一緒に探してくれたものです。基本的に詩というのは、パーッと読んだときに、グーッと感じるものもあれば、スーッと抜けていくものもある。だけど、奥底にあるものは、作者の深い思いであったり、一字一句、魂を込めていたりすることを感じとってもらうために「月夜の浜辺」という詩を題材にした。その中で、子どもたちはよく頑張っていた。心配なメンバーが何名かいたが、そのメンバーがしっかり体を起こして、よく考えていた。その姿勢が一番私にとって良かったところです。

この授業を打つに当たって、1時間ではきついなと感じたのが何点かあった。例えば、生徒の声をゆっくり聴いて、返して…というふうにはできなかった。もう少し生徒の声をつなぎながら、子どもたちから疑問の声がふっと出てくるようにしたかったが、それができなかった。メインの「ボタンをなぜ捨てられなかったのか」というところで、生徒がいろいろな発想をしてくれたのが非常に良かった。

2 研究協議(参観者から:割り当て班,教科) 司会:波照間香織(研究主任,数学)

司会:では、これから研究協議を始めますが、「どこで学びがあったか、どこで躓いていたか、この授業から学んだことは何か」という視点で、全員に発言してもらいます。どなたからでもかまいませんが…。では、津波古先生からお願いします。

(1) 津波古健先生(1班:音楽)

口調が強烈な女子と、物静かな男子の組み合わせのグループ。国語や各教科にとらわれず、様々な状況で「学びの共同体」が行われながら学校生活を過ごしている。生徒も職員も、取り組みの成果でしょうか?

司会:同じ班を見ていただいた敏也先生お願いします。

(2) 東江敏也先生(1班,社会)

佐藤先生の授業は、とても落ち着いていて勉強になった。特に感心したのは、生徒の考えを他の生徒がわかりやすいように言い換えていたところ。私が担当したのは、O君、Jさん、Yさん、K君のグループ。主に女子を中心としたグループ活動が展開されていた。共有の学びのところでは、Yさんがわからない語句を辞典で調べ始めた時、Jさんも指を差しながら共に探すという行動が見られ、こういう場面でも協同の学びが発生するのだと感じた。そして、作者の心を違う詩から読み込むときにグループの生徒が、必死になって読み取ろうとするところに、言葉を発していなくても学びが発生するのだと思った。

司会:次にどなたかいませんか?…はい、司先生お願いします。

(3) 比嘉司先生(3班,保健体育)

3班を観察していましたが、NさんがY君にいろいろ確認しながら授業しているところに今日の授業だけでなく、日頃の授業に学びがあるのだと思った。グループ活動になって詩の文脈を話し合うのではなく、読めない漢字、意味の分からない漢字を一生懸命調べていて、「ん〜」と思っている中にもT君がジェスチャーを交えて教えているところに学びがあったように思えた。一番印象に残ったのは、2枚目のプリントを配った時に3班全ての生徒が、文脈を理解しようとしているところがすごくよかったと思った。

司会:同じ場所で見えていた佳穂先生お願いします。

(4) 吉武佳穂先生(3班,理科)

NさんとY君は、題材に出会ってすぐに読めない漢字や感想についてぼそぼそと話をしていた。班活動の時は主に分からない言葉について、Aさんが辞書で調べながら全員で学んでいた。「30歳で死んでる」というAさんの気づきから想像が広がっていた。Y君の発表やT君と先生とのやり取りが見えたので、それを勇気を持って話し、共有できたら一人ひとりの考えが深まったと思う。また、T君は、「ボタンがきらきら光っていたから、拾ったんじゃない」という自分の考えと同じ内容を発表したK君の意見に身を乗り出して聴くほど、興味を示していた。

司会:話したいことはたくさんあると思いますが、話は1本に絞ってお願いします。今、K君の話題が出ましたので、K君の班を見ていただいた直人先生お願いします。

(5) 松田直人先生(5班,社会)

4名中3名が非常に活発な意見の交流を行っていた。最初の詩においては、方向性が見い出せなかった分、色々な意見が出たが、2つ目の詩においては方向性が見えて中味の濃い学びがあった。Yさんは、1度3名から声かけがあり意見を求められたが、分からないと答え、後は意見を出すことはなかった。メモは全員が取っていた。

司会：同じ5班を担当した渚先生お願いします。

(6) 比屋根渚先生(5班, 英語)

活発な話し合いが行われている班であったが、Yさんは一言も話すことはなかった。しかしながら、一生懸命3人の話を聞きプリントに書き込みを行っていた。2枚目の詩が配布された後、R君が「亡くなった子どもによくボタンをつけていたことを思い出したんじゃない?」と言い、Aさんが「なるほど～」と納得した様子だった。最後には右下に記載されていた筆者の生きた期間を見て、この人の人生についても考え合っていた。

司会：私も5班を見ていたのですが、Yさんはグループ活動では一言も発言せずに静かに聴いていた。授業後半ではR君が「Yさんはどう思う?」とYさんに声かけをしている場面があった。Yさんはそれでも自分の考えを話すことはできなかったが、3人の学び合いをしっかりと聴いていて4人で学び合っている雰囲気があった。

司会：どなたか?…はい、紀子先生おねがいします。

(7) 與那嶺紀子先生(2班, 家庭科)

笑ったり脱線しそうになったりしながらも、お互いに注意し合いながら教え合っていた。Eさんが、2つめの詩で、みんなに見やすく持って朗読をしてくれた。読みながら、『動物の話?』と言うと、『動物園って動物を連れて行って良いんだっけ?』という話になり、そこで繁先生が『動物園は誰と行くの?』と声をかけると、全員で『あっ!!』という顔になり、『子どもの事を思い出しているのかも』とひらめいた様子だった。そこからは、どんどん話が進んでいった。

司会：同じく2班を見ていた尚幸先生お願いします。

(8) 稲嶺尚幸先生(2班, 理科)

教師の何気ない一言に反応し、辞書で調べたりしていた。友達の一言にも反応し、しっかりと意見を交換していたように見えた。少しだけ笑いなどが起こったが、自分たちで修正していたのがとても印象的だった。

司会：今日は、1点に絞って話してほしいと思います。正乃先生お願いします。

(9) 伊藝正乃先生(4班, 国語)

K君が中心となり、学び合いを進めていた。「なぜ、ボタンが捨てられないのか」という発問に対し、K君が「沁みた」という言葉に注目し、「ジュワー」と心まで沁みたら捨てられないのでは」と発言した。それに対しS君も「そうかな」と答えていた。言葉に注目して捨てられない理由を考えていた。Aさんは一言も発しなかったが、男子二人が、Aさんのワークシートをのぞきこんだりしていた。また、Aさんも、男子の顔を見て、話を聴いていた。

司会：同じ4班を見ていた靖先生お願いします。

(10) 渡慶次靖先生(4班, 社会)

授業者が「波打ち際って?」の問いかけに、S君が「波がパシャッて鳴るところじゃん!」と彼なりのことばで表現していた。グループ全体が長く沈黙していたが、T君の発言で控え目なAさんが「ふっ」と微笑んだ場面があった。思考が停滞していたわけではなく、一人一人がしっかりとテキストと対話していたことが表情やつぶやきから見取ることができた。先ほど出た無口なAさんは、隣の班のKさんが「失恋した時じゃない」と言うのを聴いて微笑んでいたもので、ちゃんと聴いているんだなと思った。

司会：グループ以外の声をしっかりと聴いていたのは、グループを越えた学び合いだと気づいたと思うんですが、そういう視点でどなたか?…康平先生お願いします。

(11) 神山康平先生(6班, 数学)

班活動では終始、S君⇒Mさんで始まりNさん、A君は聴きながら頷いている状態。なぜボタンを捨てられないのか?という発問に対してもS君、Mさんでの話し合い、Nさんは頷いている。A君はずっと与えられたボタンをいじっていて、班活動に入れてないのかなと思ったが、ふとした時に「ボタンが捨てないでと言っているように感じたんじゃないのかな?」というつぶやきから班の意見が進んでいった。彼は話し合いに参加しなかったのではなく教材と向き合っていたんだとわかった。

司会：最後に教頭先生お願いします。

(12) 久高利美子先生(6班, 教頭)

他のグループは、二つの詩を関わらせて、課題について考えていたようだが、6グループは、その視点がなかなかできず、話し合いが滞っていた。普段の授業なら、先生の助言があるはずなのだが…。全体での意見交流の時間があったので、そこで6グループのメンバーははっと思ったようだ。A君は他のグループの友達の意見を聞いて、ストンと落ちたようで、しっかりと自分の考えを整理して意見を言えていた。

自主公開授業研究会に参加しての感想

國學院大學文学部 准教授 齋藤智哉 先生から

國學院大學の齋藤です。

先週は大変お世話になりました。お礼が遅くなってしまい、申し訳ありませんでした。また、素敵なかきゆしウェアもいただいてしまい、本当にありがとうございました。

当日はゆっくりとお話できる時間がありませんでしたので、本当に簡単ではありますが、感想を書かせていただきました。せっかく参観させていただいたのに、もし気分を害されるような内容であったら申し訳ありません。

それでは、今後ともよろしくお願い申し上げます。

私にとって初めて訪問した沖縄の中学校が国頭中学校となりました。衝撃の出会いだったと言っても過言ではありません。お世辞でも何でも無く、全てがあまりに自然であることに驚きました。学びの共同体の理念が、当たり前で当然のこととして、どの教室でも粛々と行われているのです。そこに作為的なものを全く感じない、と表現したら良いでしょうか。小橋川教育長はもとより、神元校長や宮城主事をはじめ多くの先生方の尽力と、地道で丁寧な積み重ねが、いまの国頭中学校の姿を生み出しているのだと思いました。全ての授業と先生について感想を述べたいところですが、今回は3人の先生について感想を述べさせていただきたいと思います。

英語の比屋根先生が初任者ということには本当に驚きました。コの字からグループに移ったときに、教室の真ん中がガランとあいてしまいました。比屋根先生は教室の真ん中がぽっかりと空いてしまった空間性に違和感を感じたのでしょうか。すぐに後ろのグループを空いた場所へ移動するように促していました。空間をデザインする感覚は、教師の身体性がもたっています。一斉授業の教室空間に慣れていると、コの字やグループにするとということだけに違和感を感じてしまい、子どもたちが学び合う場そのものへの意識や感覚が薄れてしまいがちです。比屋根先生の身体感覚は決して特別なものではありません。しかし、初任者ということで、教師として一斉授業の教室空間に慣れきっていなかった感覚が、あの判断に結びついたのかもしれませんが、ぜひ、学校全体で共有したい感覚だと思いました。

保体の比嘉先生のチャレンジにも学ぶことができました。とりわけ、ジャンプの課題の設定についてです。デザイン上では、ダルビッシュの調整法（体調管理）が課題として設定されていましたが、ダルビッシュ本人の調整法が定まらないということで、前日見てい

たスポーツニュースをヒントに「日ハム・大谷の二刀流の調整方法を考える」に切り替えたとのことでした。前代未聞の二刀流挑戦ですから調整法が確立されていない（＝答えがない）わけで、さらに生徒一人ひとりが「大谷のトレーナーになったとしたら」という立場を想定できるのが絶妙です。これはワクワクします。さらには偶然の産物かもしれませんが、日ハムの二軍キャンプは国頭村だったわけですから、子どもたちにとっては身近な対象でもありました。実際に、比嘉先生が「難しいかな～？」と言いながら大谷選手の写真を1枚見せた段階で、ある女の子は「あ、翔平だ」とつぶやいていました。今回の課題は、身近な対象であり、なおかつ多様な考え方が求められるものだったわけです。ジャンプの課題をつくるコツみたいなものは、偶然の状況でつかめるのかもしれませんがね。たまたま上手くいったときの自分の思考のプロセスや感覚を、振り返って意識化しておく、必ずや次にいかされると思います。そして、体育の先生が果敢にチャレンジしている姿は、国頭中の改革の深まりを示しているように思いました。

渡慶次先生の歴史の授業からも多くのことを学びました。資料（史料）が子どもをつなぐモノ（＝媒介）であり、学びの対象として、しっかりと役割を果たしているのです。おそらく渡慶次先生のスタイルなのかもしれませんが、わかったことを資料そのものには書き込むことは、大変良い学び方だと思いました（大日本帝国憲法の口語訳や、第一回衆議院議員総選挙における有権者の割合のグラフなど）。資料などからわかったことをホワイトボードに書き込むスタイルを見ることは多いです。しかし、資料に直接書くか、別のもの（ホワイトボードやプリント）に書くかは、ほんの僅かな違いですが、子どもたちの学びの質に歴然とした違いを生み出すことがわかりました。また、途中で、先生があるグループに、以前の授業で使った資料だと思われる風刺画（書き込みあり）を渡していました。これも重要なかわりです。以前使った資料などは、つい破棄することもあるかと思います。しかし、子どもたちにとっては自分たちの学びの履歴を踏まえることで、かつて学んだこととその時学んでいることが確実につながるのだと思います。このように、適切なタイミングで各グループに資料を戻せるのは、先生が丁寧に的確にグループの学びの状況を把握しているからだだと思います。渡慶次先生のもう一つの特徴は、グループに関わるときのポジショニングです。つねにグループ全体を把握できる位置にいます。言葉にしてみると当たり前のように思えてしまいがちですが、いざ実行するとなると、ものすごく難しいことです。

2年B組の英語の時間に、ある生徒の机が残りの3人から離れていたグループがあったのですが、スッと近づいて机をくっつけていた神元校長先生の姿がありました。この細やかな配慮が、国頭中学校のどの教室でも当たり前のことが当然のように行われていることの源泉だと思いました。子どもが学び合い、教師が学び合い、学校全体が育っている姿を目にすることができて、私もたくさんのことを学ぶことができました。本当にありがとうございました。また、ぜひ再訪することができればと思います。

麻布教育研究所の永島です。先日は大変お世話になりました。本当によいものを見させてもらいました。コメントの送信が遅くなり申し訳ありません。もうこんなにたったのだと思うと、あの一週間前の光景が夢のようです。

気づいたことの中で、会で出なかったものに限っていくつか簡潔にお伝えできればと思います。

まず、こんな授業を受けられる子どもたちは幸せだな、こんな子どもたちに授業をできる教師は幸せだなという嬉しい気持ちの余韻に浸っています。

1 佐藤先生について

これほど、

- ・細やかに隅々まで、子ども、自分の動き、デザインに気を配ることと、突き詰めること
- ・様々なことのバランスをとること

のともすれば、よく足を引っ張り合ってしまう（一方をたてると一方が失われる）二つのことを両立していることがすごいと感じ、心がけられていることを伺いたいと思いました。

2 生徒について

Tくんが良い例ですが、Tくん、〇〇を行ないましょう、という時には、ニヤニヤしたり、ぼーとしたり、うつむいたり、しかできない状況にも関わらず、先生であったり、仲間が話している時は、非常によく聞いていて、聞く、ということをどれほど大切にされているか、教室全体に感じました。通常問題があると感じる子ほど、聞くことが難しいのですが、この教室では逆で、聞くことだけはそういう子でもできている、ということがすごいと感じています。一方、唯一2班の子どもたちが、不思議と、たまに、他の子の（自分以外の班の子の）発言や、先生の発言を聞けず、集中力が切れている瞬間があることが、なぜなのか、考えてしまいました。

3 課題について

4回めのグループ（2つめの詩を読んで、1つめの詩に戻る際）の時に、多くのグループである種の停滞が見られました。例えば、茶化す、もしくはおどける、もしくは、2つ目の詩を閉じる、伏せる、もうこれ終わりと言ったりするというものでした。それをなぜなのだろうと考えていくと、まず、3回めのグループで、2つめの詩に十分入り込んだこと、その入り込んだと同時に、実は、もうその際に、頭の中では常に1つめの詩といたりきたりしていたこと。4回めのグループで、その一度、3回めのグループで考えたことを、改めて言葉にしようとしたときに、その時に、考えた感じたことと比べて、あまりに陳腐であったり、どうしても違和感、齟齬があるようなものしか思い浮かばなく、それが、茶化しに逃げたり、もうやらないといった抵抗につながっていったのではないかと思います。エビデンスがしっかりあるわけではないのですが、表情であったり、仕草やつぶやきを見守ると、そのように感じられました。こういうジャンプもあるのだな、戸惑いのジャンプ、違和感のジャンプと言ったらよいのか、ある種の生理的嫌悪を乗り越えて、言葉を紡ぎ出そうとする国語のジャンプというものを学ばせてもらいました。

大変、お世話になりました。引き続き、よろしくお願い致します。

国頭村立国頭中学校の皆さま、高知県須崎市立上分中学校の笠井秀人でございます。
先日は、素晴らしい貴校の実践を拝見させて頂き、本当に、ありがとうございました。
感動と共に帰ってきたことでした。

アンケートにお応えすればよかったのですが、後日になり申し訳ありませんが、メールにて感想を送らせていただきます。

私個人の感想であり意見ですので、的外れや勘違いなどもある事をどうか、お許し下さい。

貴校の自主公開授業を拝見させて頂き、また研究会に参加させて頂き感謝申し上げます。

10年以上前に高知大附属中で6人班に疑問を感じ小グループの研究をしていた時、試行錯誤の結果4人がベストだと確信しました。その頃に佐藤先生の「学び」と出合って10年ほどになりますが、国頭中は、全国の実践している多くの学校の中でも顕著な成果を出している優れた学校であろうと思い、まことに僭越ですが、感想を述べさせていただきます。

公開授業と提案授業を通じてまず感じたのは、グループで話す生徒も黙っている生徒も共通して「学びを楽しんでいる生徒」だったと思います。ただ、授業者の方は、経験年数や「学び」への思いからか、微妙な差異が感じられました。形は「学びの共同体」的ではありますが、では、学びを成立、深める授業であったかと言うと、生徒の思考の交換よりは、教え込みに近い従来型が根に残ったような状況も見られました。

私は、生徒の「あ！そうか。」「うーん、なるほど」「ふーん」「え！違うんじゃない、」などから始まる学びあいの深さ。そこに「学び」の深化があると考えています。どの授業にも授業者のヒントが多かったのが気になりました。ジャンプを求めるあまりのヒントの連発はジャンプではなくなる事が多いのです。授業者の個々やグループへの学びの深化への支援（ケア）の具体的な研修が必要なのではないでしょうか。それは、まず、授業者が「聞き耳をたてる」授業ではないかと思います。生徒のつぶやきをグループが尊重する事は、生徒に求めるのですが、それ以上に授業者が聴き、大切にできる。だからこそ、生徒も個々のつぶやきを大切にできる、するようになるのではないのでしょうか。

しかし、わずか3年でこの成果は目を見張るものがあります。素晴らしいと感動したことでした。それも、教育長及び学校長が「同僚性」を重要視しているからだと思います。日本全国の自治体や学校で「同僚性」を大切にしている所がどれだけあるのでしょうか。佐藤学先生は、特にここ数年「同僚性」が大切だと繰り返し言っておられます。それは、そういう危機的背景が全国の学校で多いからなのでしょう。

2月の東大附属での会でも話題になった事ですが、「学びの成立」の最大要因とは何か。というテーマで、「その学級（社会）に安心が存在しているか」そして、「安心」をしっかりと教師が保障しているか。は、共通の理解項目でした。学校の職場という社会で教員に安心が無い場合、教師どうしの「学び」の存在はあり得ません。また「生徒は教師の鑑」とは、よく若いころ言われたものですが、教師の社会に「安心」が無いと、生徒の社会にも「安心」が発生するはずが無いのです。体罰・暴言はその最たるものでしょう。そういう意味から教育長が率先して「同僚性」を追求し学校の中に「安心」による「学び」を創り出す。だからこそ、この3年間での成果だと推察いたしております。

国頭中学校で、国頭村で教員として授業ができる幸福は羨望の極みではありますが、益々国頭から沖縄、そして全国に「学び」の発信がされますようご記念いたしております。

学年研修会② 1年B組 理科授業デザイン

授業者 稲嶺 尚幸

- 1 日 時 平成25年6月12日（水）2校時
- 2 単元名 「植物のくらしとなかま」
- 3 目 標 光合成の仕組みを説明できる。
- 4 授業の流れ
 - (1) 目標の確認（課題提示）（一斉）
 - (2) 共有の学び（一斉→グループ）
疑問に思ったところ、気がついたところに線を引く。
 - (3) 全体でのすり合わせ（一斉）
光合成に必要な材料と条件は何か？



学年研修会② 1年B組 理科授業リフレクション

平成25年6月12日 授業者：稲嶺 尚幸

1 学級の様子について（学級担任：稲嶺 尚幸先生）

全体場で意見を言える生徒が少ないと言うのが現状じゃないかなと思う。授業態度が全体的に悪いわけでは無いんだけど、学びができていないのかなと感じている。学力面で気になるのが、S君とMさん。授業中落ち着きがないのが、S君、Mさん、Y君、教科にもよると思うが、Yさんのおしゃべりが気になる。全体的に元気があるので、これからの舵取り次第かなと思う。家庭学習は、なんだかんだ言いながらも頑張ってきているのでそこを褒めて学級を徐々につくっていきたいと思う。

2 授業の振り返り（授業者：稲嶺尚幸先生）

本時の目標が『光合成の仕組みが説明できる』。前の時間に試験管に息を吹き込んで、2本に植物の葉を入れて、残りの2本は入れないで、太陽の光に当てて、そこに石灰水を入れてどちらが濁るかと言うことで、1本だけ濁らない物がでて結果をまとめて今日は考察の部分だったんだけど、なかなか、光合成をするときに二酸化炭素が使われると言うシンプルな言葉が出てこなかったのが少し意外だった。でも、最後まとめている時に、「光合成の時に使われる」と出てきていたので、それはよかったなと思った。本当は、今日で光合成の仕組みについて説明まで出来るようになって、光合成の材料まで入りたかったが、思ったよりも班活動が進まなかったので、少し時間を延ばして、活動グループ活動に要点をおいて時間をたくさんとった。その中で、今まで習ったことを復習して答えを見つけようとする人もいれば、ちょっと硬直してなかなか話し合いが進まないグループもあった。ヒントを与えると書き始める、このヒントを見つけられるようにまだまだ鍛えていかないといけないかなと思った。S君は、自分で答えを考えて書けないが、隣にYさんがいるのでYさんが話している内容をプリントに自分でまとめていて、Yさんも優しいので見せてあげて、S君は学力は心配だが、授業に取り組む姿勢は徐々に出来てきているのかなと思う。あと、今日、2名ほど忘れ物をしている生徒がいて、どんな風にするのかなと思ったが、教科書に書いたり前時のプリントの裏に書いたりしていたので良かったかなと思う。前回休んでいて配っていない生徒がいたことに気づかなくて、準備ができていなくて、「隣の人のを見てね」と言ったら、案の定プリントがなくてちょっとおしゃべりがあったので、ちょっと反省点なのかなと思った。まだまだ学び合いにはなっていないと思うけど、少しずつ話し合い活動は出来てきているのかなと思った。

3 研究協議（参観者から）

(1) 與那嶺紀子（1，2班）

1班2班共にほとんど声を発する事がなくて、声を出して学び合いというよりは、お互いの答えをのぞき込んで答えを書いたりしていた。それぞれが、それぞれで記入していて、分からないときに周りの答えをのぞき込んでいる様子だった。1班は、最初からS君がおなかが痛いと言っていて、先生に言ってトイレに行ったら？と言ったら、トイレに行って落ち着いていた。後は、まとめの時に2班の方がほとんど声を発する事が無かったが、「周りをみながらまとめをしてごらん」と先生が言ったときに、Mさんもぼーっとしていたが、周りが教科書をみながら書いている事に気づいて教科書を見ながら調べていた。先生が授業の中で「発表する人をどうするんだった？」とい

う一声で、みんなが発表者を向いていていいなと思いました。

(2) 伊藝正乃先生（3，4班）

3班は、D君が早めに自分の意見を書き、他のメンバーを待っている状態があった。3人が書き終わると何を言っているか分からなかったがぼそぼそと言って、班の考えをまとめた。光合成に必要な原料で「エネルギー」の所でデンプンや光合成と意見が分かれていたが、Y君がD君に「エネルギーって日光ね？」と訊くと「光かな」と答え、それを聞いた後の2人が「光」と書き、答えを合わせていて、学びがあったのかなと思った。

4班は、S君が自分の考えをS₂君に伝えるがあまり反応が無く、班の意見をまとめるところで教師から「それぞれの意見を書いているよ」と指摘されると、S₂君がS君のワークシートを見てまとめていた。S君がS₂に「見せて！見せて！」と言っていたが、S₂君は、「一度見せたから」と見せないという場面があった。

(3) 津波古健先生（5，6班）

5班6班もほぼ一緒。強いて言えば、Y君が忘れ物をして、というか「何でないの？」と聞くと前回休んでいたということで、それをS₃君が見せていた。学び合いの根本的もので、今日の授業がどうのこうのではなくて、学びの理念ということで、学びに対してこれが学びの形ということにとられることはなくて、プリントがないから始まるのも学びの始まりそのものではないかと思う。学びそのものではないけれどきき合う学びが、始まりはしたと思うんだよね。ただそれが継続できなくて、違う話題になっておしゃべりになったりとか、だからそれを我々がどうとらえるのか、学びが出来ていないと捉えるのか、始めてはいるけど続かない、どう捉えるかと思います。他の班を見ていたら、やっぱり似たような物で、ワークシートの記入の仕方、さっき言った光合成で二酸化炭素、光合成しているから白くなるとかならないとかではなくて、光合成する事によって二酸化炭素が吸われるから、そこがキーポイントだから待っていたのだけど、そこが全然出てこなかったというところが、それを見ていて、出てこい出てこいとしたかったはずだけど、そのいちばんのキーポイントが、出てこなかったということで、あの辺で止まったのかなって気がした。だから、理念じゃないけど、みんながそれを頭でわかっているのかな、ただ言葉を発見できなかったのかな、光合成って何をやるのかなってそこまで降りれなくて、そこから空回りが始まって、だからそこら辺からどの班を見ていても同じ感じで、言葉が出てこなかった。それで学びが出来ていないとかではなくて、ゆくりとした動きだった。先生は、何を言いたいんだろう、何を言わしたいんだろうっていうのはあったと思うんだけどね、子どもたちもそれを自分達が発しきれないと言うもどかしさを感じていたんではないかと、だから、学びが出来ていないのではなくて、学びのスピードがゆっくりだったと言う感じじゃないかなと思う。

(4) 玉城拓也先生

初めの方は、Mさん、M₂の女子同士できき合っていて、尚幸先生気づいていたか分からないが、R君がファイルを忘れていて、最初の方はぼーっとしていて、H君も考えてはいたと思うけど何も書いていなくて、尚幸先生が来て何か説明した後から、R君が教科書とか周りのプリントを見ながら色々「こってこうじゃない？」と意見を出していた。女子は、自分達の考えの所を自分達で書いていたけど、H君はまったく書けていなくて、けど話し合いが進むにつれて、3人の意見をききながらけど、まとめたように見えた。後は、きっかけがあればどんどん話すようになっていたけど、プリントがないながらもR君が「これああじゃやない？」などと言っていたのが印象的で、H君が眠いと言ってあまり意見を出さなかった。

学年研修会② 2年B組 英語科授業デザイン

授業者 比屋根 渚

- 1 日 時 平成25年6月12日（水）4校時
- 2 単元名 「Program2 “A Trip To Finland”」
- 3 目 標 “be going to～”と“will～”の使い方を理解できる。
- 4 授業の流れ
 - (1) 目標の確認（課題提示）（コの字）
 - (2) 共有の学び（コの字→グループ）
プリント学習
 - (3) ジャンプの学び（グループ）
未来形を使って夏休みの計画を立てる。
 - (4) 全体でのすり合わせ（コの字）



学年研修会② 2年B組 英語科授業リフレクション

平成25年6月12日 授業者：比屋根 渚

1 授業の振り返り（授業者：比屋根渚先生）

2Bはいつも元気なのでどうくるかなと思っていたけど、最初から落ち着いて話が聞けていたかなと思った。いつもR君が席を立ったりする場面が多いけど、いつもよりは席に座って課題に集中していたかなと思った。しかし、ジャンプ課題になってちょっと書くことが苦手なので、書くことをどうにかして好きなことを書かせることから始めようと考えたけど、なかなか進まなかったの、ジャンプ課題が課題かなと思った。生徒の学びの様子は、プリントも仕上げていて、グループから質問もちろほら聞こえてきたので、生徒達は頑張っていたと思う。

2 研究協議（参観者から）

(1) 松田直人先生

ジャンプ課題に20分以上取り組む時間があつた。時間がしっかり確保されていたのが良かった。それと語りかけもしっとり静かになされていたので良いと思った。

課題はカバンが3名ほど掛けられていたので環境整備が必要と考えた。それとジャンプの内容が高いほど良いといわれているので、難易度を難しくしても良いかなと思った。ただ、日頃を考えるとよく頑張っていたし、ジャンプ課題の時に学びが生まれていたと感じた。

質問としては全体のすりあわせがなかったのはなぜなのだろうと感じた。

<質問に対して>（比屋根渚先生）

簡単な内容だったので、後で私が解答した方が良いと考えたから。それから単語のスペルミスもチェックできると考えたので、私がやった方が良いと考えた。（その時間をジャンプにまわすため）

(2) 東江 敏也先生

授業をしていたので、行ったり来たりしていたんですけど、自分が見たとき感じたのは学びが発生しているなと思った（ジャンプ課題の時）。Kさんのグループが分からない語句があつた時、Kさんが自ら辞書を引いてMさんが『こういう意味だばあ』と分からない語句を自分たちで見つけ出そうとしていて、学びが発生しているなと感じた。

あと、渚先生がいいなあと思ったのは、Sさんがかき氷ってどう言うのと質問してきたときに自分だったらすぐ意味を教えそうだけど、渚先生は辞書を持ってきて自分たちで学ばせようとしているのがいいなあと感じた。ただ、全体的にテンションが高いなと感じた。

学年研修会② 3年B組 社会科授業デザイン

授業者 渡慶次 靖

- 1 日 時 平成25年6月12日(水) 3校時
- 2 単元名 「第一次世界大戦とアジア・日本」
- 3 目 標 第一次世界大戦の起こりと影響を説明できる。
- 4 授業の流れ
 - (1) 目標の確認(課題提示)(コの字)
 - (2) 共有の学び(コの字→グループ)
資料1は、何を表現しているのかを考え、気づいたことを書き込む。
 - (3) 全体でのすり合わせ(コの字)
 - (4) ジャンプの学び(グループ)
資料2(白地図)に参戦した国を色分けする。
 - (4) 全体でのすり合わせ(コの字)
戦争が世界中に拡大していることに気づかせる。



学年研修会② 授業リフレクション(全体協議)

平成25年6月12日 授業者：稲嶺尚幸（1年）

比屋根渚（2年）

渡慶次靖（3年）

1 1学年協議の内容と授業者の反省

(1) 1学年主任：與那嶺紀子先生

理科の授業でほとんど声を発することがなかったグループがあったり、ちょっと固まったりするというのがあるのがあって授業の中で学び合いが難しい、という話が出ていた。それぞれの授業の中でどのように学び合いが発生しているのかというのが一番多かった話題でした。

学び合いの中でボソボソというのが聴きとれないというのがあって、でもそれぞれわからないから教えてというのではなくて、わからなくてお互いのものを覗きこんだりというのが今回は多く見られた。

(2) 次の授業へどう繋げたいか：稲嶺尚幸先生（授業者）

本時のねらい通りに展開できなかった授業だった。学び合いの中で躓いているのに気づいてあげられなかった。予想できなくて準備不足だった。生徒に今日のねらいがなかなか伝わっていないと感じた。

学び合いの時になかなか進まないグループもあり、そこで少しアドバイスもしたが、今日の授業の内容が伝わっていないと、一番感じた。次の授業へ向けて、本時のねらいと前時との繋がりを意識して授業の準備をしないといけないと感じた。

2 2学年協議の内容と授業者の反省

(1) 2学年主任：松田直人先生

話題が多かった内容は、ジャンプの課題でした。今日のジャンプ課題は20分から25分あてられてたっぴりと時間が確保されていた。活発に学びが見られたのは残り15分くらいの時。グループによっては前半は交流がなかったり、学びが生まれていなかった所もあったが、後半からは活発になっていた。

渚先生の語りかけがよくテンションも抑えられていてよかった。しかし、生徒のテンションはまだまだ高いということで、メリハリをつけるという約束事を全体的にやっていきたい。

そして、ジャンプの課題の難易度が低かったのももう少し高くてもいい。今回は誰にでもできる難易度だったのもっと難しくした方がいい。

教室環境については学年全体そうだが、カバンが机の横に提げられていた。

ジャンプの課題の後のすり合わせについては、発表的な授業にならないように指導を受けていたので、あえて省いた。しかし、その時にテンションが高くなっていたの

で、すり合わせは必要だったんじゃないか、と議論になった。

(2) 次の授業へどう繋げたいか：比屋根渚先生（授業者）

まだまだジャンプの課題が易しすぎたと思った。生徒は一生懸命に頑張ってくれていたが、途中で集中力が切れてしまった。そのことに気づいていたが、どのように切り替えていいのかわからなくてコの字に戻すことも考えたがそれができなくて、後半は集中が途切れておしゃべりをしたり鉛筆が止まってしまうことがあったので、今後工夫していこうと思った。教材研究が足りないと思ったので、これからの授業はもっと教材研究に時間をかけていいジャンプ課題を設定していけるようにしていきたいと思う。

3 3学年協議の内容と授業者の反省

(1) 3学年主任：佐藤繁先生

靖先生が最初に出してきた共有の学びということで、ヨーロッパの地図をかたどったその中に各国の戦士が混じっている絵なんだけど、これをよく資料として提示してきたな、ということで生徒からいろんな意見が出てきた。たとえば、「これは人が乗っているね。違う人の国だよね。ロシアの人が踏んでいるよね。」いろんなところからそのような言葉が出てきていて、この事を考えさせるだけで十分に戦争の状況がどうだったのかという想像を駆り立てるような課題だった。

次のジャンプ課題が出たときに勢力図はどうなっているのかと国ごとに色分けした時、さすがジャンプ課題だな、と思った。私がみていたグループはそこでピタリと活動が止まって、どうしていいかわからないという状況になった。その中で各々でできる子はなんとかやろうとしていた。ちょっと苦しい子はその課題から離れようとしていたその時、靖先生が絶妙なところである班に入っていた。本人の話の中から今まで学んできた点と点をうまくつなぎ合わせるとジャンプができるようになる、と言っていた。

(2) 次の授業へどう繋げたいか：渡慶次靖先生（授業者）

ジャンプの課題はわからないだろうと思って出してみた。やっぱり生徒はわからなかった。ただ、歴史の中でずっと勉強してきている1800年代の条約を1つ1つ書いてつぶして地図と照らし合わせていけばかなりのヒントが出てきて、色付けができるのだが、生徒はそれができなかった。でも、それはそれでいいと思った。次の時間に持ち越せばいいと思っている。食い付きがあまりなかったので、おもしろい題材を準備する余地があった。

最近何名か気になる生徒が出てきた。Sさん、Hさんが向かい合うことがない、というのが気になっていたが、今日も教材に向き合っていないというのが気になったので次はそれに注意をして授業を展開していきたいと思う。

歴史をたぐり寄せながら地図と並行しながら学習させていこうと思っていたので、うまくはいかなかったがそれでもいいかな、と思った。

学年研修会③ 1年A組 家庭科授業デザイン

授業者 與那嶺 紀子

- 1 日 時 平成25年9月6日(金) 2校時
- 2 単元名 「日常食の調理をしよう」
- 3 ねらい だしに含まれる「うまみ」に気づき、実際にだしをとって塩と醤油で調味する。
- 4 授業の流れ
 - (1) 目標の確認(課題提示)(一斉)
 - (2) 共有の学び(小グループ)

3つのだし汁(かつおぶし、こんぶ、煮干し)の味を比べ、だしの種類を予想する。
 - (3) 全体でのすり合わせ(一斉)

各班に発表させ、だしの種類について全体で共有する。
 - (4) ジャンプの学び(小グループ)

実際にだしをとって塩と醤油で調味する。



	A	B	C
材料	にぼし	こんぶ	かつお
特徴	味やわらかい!! 香りがいい!!	ふわりとやさしい!! おだしがおいしい!!	おだしがおいしい!! おだしがおいしい!!
何に	かき揚げ!!	おだし	おだし



学年研修会② 1年A組 家庭科授業リフレクション

平成25年9月6日（金）授業者：與那嶺 紀子

1 学級の様子について（学級担任：與那嶺紀子先生）

1年A組は、男子14名、女子12名のクラスで、とても優しい性格の生徒が多い。配慮が必要な生徒が多く在籍していて、それぞれの特性がある。多くの生徒が受け入れることが出来ているが、出身小学校が違う生徒同士のトラブルも多い。他者と関わる事の苦手な生徒が多い中で、学び合うことが厳しいことが課題。

2 授業の振り返り（授業者：與那嶺紀子先生）

今日の授業では、調理実習の1回目ということもあり、汁物だけを作りながら調理室の使い方を学んでほしいと思い、だしに注目した授業にした。小学校で味噌汁とご飯の炊き方はやるが、実際に生徒に聞いてみるとだしをとったことがない生徒が多く、だしの取り方を振り返りながら実習を取り入れた。今回ABCの液体から何のダシかを考える場面では、他のクラスでは、各班ごとにだしを班全体で1つだしを用意したが、A組は、配慮が必要な生徒がいるため、個人個人にだしを用意した。その後の、塩を入れて味の変化をする所は、なくてもよかったかなと感じた。すりあわせの時など、じっくり間を持たせて答えを聞くことが出来なかったのも、次回からは分かる生徒だけの発表にならないように注意していきたい。また、だしを使ってアーサ汁をつくる実習では、普段の実習では、調味料などをしっかりと計量させるが、班で味をみながら作らせてみた。初めは、「先生、先生！」と質問も多かったが、どうにか班で協力して作っていたのでよかった。

3 研究協議（参観者から）

(1) 稲嶺尚幸先生（1，2班）

1班は男女の交流が出来ていない。女子だけで進んでいた。R君がついて行けない。周りが声をかけていたらいいなと思った。

2班は、意見を聞きあえていた。K君の「〇〇だよな～」というのにみんなも聞いていた。Sさんがみんなに話しをふっていて、それぞれの意見を聞いていた。Sさんがまとめていた。

1班は、言い合い。2班は、きき合うことができていた。

(2) 玉城拓也先生（3，4班）

実習だからか活発に意見がでていたかなと思った。G君とかの支援が必要な生徒が入っていないので、どうしたらいいのかなと思った。

(3) 伊藝正乃先生（5，6班）

6班はS君がいて実習中男女かかかわらずきき合っていた。6班は、感覚で調味していて失敗していた。また、R₂が気分が悪いと言っても、みんな気にしていない様子だったのでどうかなと思った。もっと、気にかけてもいいのではないかな。

5班は、たんと進めていた。K君がリードしてまとまっていた。

4 授業改善に向けて（與那嶺紀子先生）

これまでの授業では、実習になると規定量をしっかり計りながらの調理となるが、今回、初めて自分達でちょうどよい味になるように話し合いながらの実習をさせてみた。実習になると自分の役割だけをやり、実際に家庭で作ろうとすると流れが分からずに作れないことが多いので、こういうみんなで考えながらやることもいいなと思った。

学び合いの部分では、特定の人ばかりの発言になりがちで、うまく間が持てなかったのもこれからは気をつけていきたい。また、まだまだ声のトーンも大きいので注意をしながらやっていきたい。

もっと、生徒を引きつけるような教材研究をしながらこれからの授業作りに生かしていきたい。

学年研修会③ 1年A組 社会科授業デザイン

授業者 東江 敏也

- 1 日 時 平成25年9月6日（金）4校時
- 2 単元名 「ヤマト王権と仏教伝来」
- 3 ねらい 聖徳太子はどのような政治を行ったのか、「17条の憲法」から考察する。
- 4 授業の流れ
 - (1) 目標の確認（課題提示）（コの字）
 - (2) 共有の学び（コの字→小グループ）
「17条の憲法」の読み下し文や現代語訳から聖徳太子の政治について考える。
 - (3) 全体でのすり合わせ（一斉）
聖徳太子の政治について、全体で共有する。
 - (4) ジャンプの学び（小グループ）
当時の日本の様子と照らし合わせて、憲法1条をつくる。



学年研修会② 1年A組 社会科授業リフレクション

平成25年9月6日（金）授業者：東江 敏也

1 授業の振り返り（授業者：東江敏也先生）

授業をやってみて、生徒の学びを中心にはせず、自分中心で授業を進めてしまっているなあと感じた。生徒が考えたいと思っているのに、時間を気にして切って、次に進めてしまっていたなあと感じていた。基本的に発言する子はいなくていつも通りだったが、眠そうな生徒が気になって支援していたりしたが、まだ理解できていないなというのが伝わったので、やはり教材の提示・・・もっと生徒が食いつくような提示の仕方があったのかなあと感じた。これからもっと授業をやるにつれて改善していきたいので指導をよろしくお願いします。

2 研究協議（参観者から）

(1) 松田直人・比屋根渚先生

A班、B班、C班の学びについて見ていた。

ランクを分けて、AとかSとかつけていたので、問題のレベル分けができていて良かったと感じた。ランクSの問題は特にレベルも良かった。

学習指導要領に載っている読み取り・解釈・説明のサイクルを授業形態に取り入れているが、その中の読み取り・解釈をさせていこうというやり方は良いと感じた。

A班はK君・S₁さん・S₂さんの3名がよく活動していて学びが生まれていた。

B班は、A₁さんが中心で、S₃さんと2名が活発に活動していた。S₁君は辞書を引く係をしていた。みんなが困ったときにA₁さんが投げかけてS₃さんが反応する展開だった。

終わろうとするときにA₁さんが先生にもっと時間ほしい、考えたいと注文していて、問題にしっかり向き合っているのが分かった。敏也先生は、実際の憲法には無いものでもいいんだよ、自分たちのオリジナルでいいよと投げかけていた。

C班は、Y₁さんが中心でどうにかまとめていたが、周りが反応していなかった。最後はR君がジャンプの発表をしていたので頑張ったのかなと感じた。会話がないうちだったが、敏也先生は、問題をかみくだいて、取り組みを促していた。ジャンプ課題においても上の2つの班は、話さない子も含めて学びが生まれていた。

発表では、G君が言った内容からK君やA₁さんは資料から探してみたり、というのがあったりして学びがあった。1年生でこれだけ静かに授業がすすめられたらとても良いと感じた。

(2) 波照間香織先生

最初の一問一答、順序よくあてていったが、他の人があてられている時も考えている子が多くて、面白いなと感じた。しかも7分でグループにもしていたので、学びの共同体の理念に基づいて頑張っているなあと感じた。

D班は、G君が一人で訳して二人は見ているという感じ。他はついていけない。途中からS₄さんが入ってきてそこでは学びが発生していた。

E班は、少し厳しかった。最初は私にも質問してきたり意欲はあった。S₅さんが頑張って引っ張っていかうとするのが見えた。教科書から内容を見てみようという場面では皆集中していた。みんな学びたいという意欲は感じた。難しいジャンプ課題によく取り組んでいた。

(3) 比嘉 司先生

F班はR₂君を中心に頑張っていた。S₆さんが書く。R₂が何か言う。Mさんは黙っているけど集中してやっている。1つのプリントに4名が皆見えて集中している班だった。問題をやろうとする雰囲気があった。みんなで相談している班だった。

G班は、R₃君・Y₂さんは厳しくて、R₄君が一人でやっている感じだが、最後のジャンプ課題では、R₃君が笑顔でいたりしてY₂さんもジャンプ課題に取り組もうとする姿勢はあったのかなと感じた。

3 授業改善に向けて（授業者から）

次の授業に向けて考えるのは、眠りそうな子や考えていない子に対してどのように興味付けをするかが課題で、教材研究をいっぱいやってどうしたら食いついてくるかを研究したい。良い資料も使えるようにしたい。板書も黒板を見たときに授業の内容が分かるようなきれいな板書をしたい。生徒の意見に対して分かりやすく納得させたい。もっと話し方を学びたい。今日はありがとうございました。

学年研修会③ 3年A組 理科授業デザイン

授業者 吉武 佳穂

- 1 日 時 平成25年9月6日（金）3校時
- 2 単元名 「化学変化とイオン」
- 3 ねらい ヒトの体にとってイオンは必要不可欠であることに気づき、水溶液に含まれるイオンから元の電解質が何か推測できる。
- 4 授業の流れ
 - (1) 目標の確認（課題提示）（一斉）
 - (2) 共有の学び（小グループ）
ポカリスエットのラベルから、陽イオン・陰イオンを抜き出し、イオン名を調べる。
 - (3) 全体でのすり合わせ（一斉） イオンの種類について全体で共有する。
 - (4) ジャンプの学び（小グループ）
ポカリスエットのドリンクを作るための原材料を考えよう。



全体研修会② 2年A組 道徳授業デザイン

授業者 松田 直人

- 1 日 時 平成25年9月19日（木）5校時
- 2 主題名 「人間として生きる喜び」（資料名：「償い」）
- 3 ねらい 自分の行為に責任を持つことの重要性和誠実に生きることの大切さを考えさせる。
- 4 授業の流れ
 - (1) 前時の内容やねらい、話し合いのルールを確認する。（コの字）
 - (2) さだまさし作詞・作曲の「償い」のYouTube動画を大型TVで視聴する。（コの字）
「あなたなら、ゆうちゃんを許せるか？許せないか？」
 - (3) 被害者の奥さんは、なぜ許したのだろうか？（小グループ）
それぞれの意見を聴き合い、班で共有する。
 - (4) 全体でのすり合わせ（コの字）
各班で出された意見を全体で共有する（すり合わせる）。



第二学年 道徳学習指導案

日 時：平成25年9月19日(木) 5校時

対 象：国頭中学校2年A組 男子14名 女子12名 計26名

授業者：教諭 松田 直人

【年間指導計画2学年 P127 10月計画】

1. 主題名 『人間として生きる喜び』

内容項目：3- (3) 人間の弱さの克服、人間の気高さ、生きる喜び

2. 資料名 「償い」 出典（かけがえのないきみだから 2年）

3. 主題設定の理由

(1) 価値観

人間としての誇りを持って生きていくためには、自ら考え、判断し、実行し、自己の行為に責任を持つことが求められる。しかし、私たちは日々、大小の差こそあれ、いろいろな過ちを犯しながら生きている。思いやりを持ち、自分の言動に注意しても、時には選択を誤ったり、人を傷つけてしまったりする。そんな時、逃げたり、ごまかしたりするのではなく、自分の過ちと正面から向き合い、誠実になることで誇りを取り戻し、堂々と生きていけるようになることは大切である。周囲の人とより深いつき合いを求め始めた2年生にとって単に求めるだけでなく、自分自身が誠実であることの必要性を考えることは大切であると考え、本主題を設定した。

(2) 生徒観

2年A組は明るく朗らかな生徒が多い。活発な生徒も多く、大方の生徒は前向きな態度で日々の活動に取り組んでいる。しかしその反面、物事を深く考えることが苦手で、軽い気持ちで相手を傷つけてしまうような言動をとってしまうことがある。そんな時、相手に対して悪いと思っても適切な対処ができず、適当に謝ってその場を濁し、また同じ事を繰り返すことが多々ある。また、何かを失敗した時、正面から向き合わず、ごまかしたり隠したりする傾向があり、誠意を持ってやり直したり、同じ失敗を繰り返すまいとする意識が弱い。そこでこの授業で人とのつき合いにおいて、自分の行動に責任をもち、過ちを犯してしまった時にはこのことに対して誠意をもって対応することの大切さを知らせたい。また、誠実な行動は、たとえかたくなになってしまった人の心も変える可能性があることや、人間の心を変えるのもまた人間の心であることをあわせて考えさせていきたい。

(3) 資料観

資料「償い」は昭和57年の作品で、実話をもとにしている。交通事故で人を死なせてしまった「ゆうちゃん」が、その償いに毎月被害者の奥さんに送金している。被害者の奥さんは、許せるはずもないが、その誠実さに、思いやりと広い心で「ゆうちゃん」を理解し、毎月の送金を断る。しかし、彼は償いきれない罪を自覚し、送金を続けるという内容である。ゆうちゃんの誠実さに触れることにより、ねらいに迫っていききたい。

(4) 指導観

まず、被害者の奥さんの憎しみの心をとかしたゆうちゃんの誠実な行動に気づかせる。その上で、奥さんの許しを得た後のゆうちゃんの行動を考えさせ、相手の気持ちを考えた誠実な行動とは何かを考えさせたい。その中で発問によって生徒に「揺さぶり」をかけると同時に、生徒相互の話し合い活動(学び)の時間を確保しながら生徒自身に意見の交流をさせ、「きき合う」関係づくりを強化させたい。

(5) 校内研修主題との関わり

本校では、昨年度から沖縄県教育委員会から教育課程研究校の指定を受け、研究の骨子づくりに取り組んでいる。研究主題を「きき合い 学び合い 支え合う 協同的な学び」とし、「学びの共同体」の理念による授業改革で『一人残らず、すべての生徒の学びを保障する』ことを念頭に取り組みを継続している。

授業での自分の判断理由や意見を班ごとに交流させることにより、きき合い 学び合い 支え合う協同的な学びができ、本校の教育目標である進んで学び、よく考える生徒に近づき、すべての生徒の学びが保障されていくものと考えている。

4. 本時の指導と生徒の活動

(1)資料名 『償い』

(2)ねらい

自分の行為に責任を持つことの重要性和、誠実に生きることの大切さを考えさせたい。
その学習をふまえながら、自らの人間性の成長と仲間との豊かな信頼関係を育んでいくために、相手を尊重し思いやる態度を育てたい。

(3)授業の工夫

班の活動の場面では、自分の考えを発表させるが、生徒同士が相手の意見を言い負かしたり、自分の意見を発表するだけに終始するのではなく、発表を通じて他の生徒の意見をじっくりときき合うことによって、他の生徒の意見を手がかりに、自分自身の考えを練り上げ、吟味させたい。

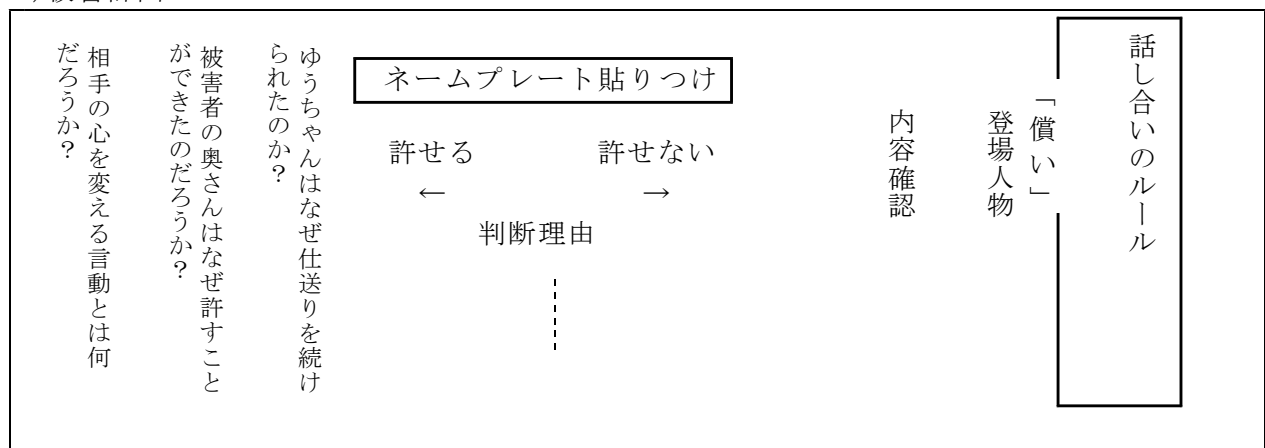
終末の場面でも、ただ感想を書くだけで終わらせるのではなく、自分自身の考えを導く影響を受けた意見や印象に残った意見を書かせることで、校内研修で進める「きき合う」関係づくりの向上につなげたい。

(4)本時の指導過程

過 程	学習内容	時 間	活 動 内 容		指導上の留意点 及び 予想される生徒の反応
			教師の活動	生徒の活動	
導 入	- 授業内容やねらいの確認 - 話し合いのルール確認	5分	- 前時のふりかえり 「考える道徳について。」 - 同上	- 話を聴く - 話を聴く	《話し合いのルール》 他者の意見を否定しない 活動時間を守る 賞賛の拍手を送る
展 開	- 資料「償い」の前半部分から資料を理解する - ワークシートの配布 - 第一次判断	35分	- 詩の朗読 「償い」という昭和 57 年に発表された、実話をもとに書かれた詩でした。読んでみてどうでしたか？ 被害者の奥さんは 「人殺しあんたを許さない！」と ゆうちゃんをののしりました。 ①あなたなら、ゆうちゃんを 許せるか？許せないか？ - 状況の確認をする	- 歌を聴く 「ゆうちゃんがかawaiiそう」 「苦しい」 「つらい」 「被害者の奥さんは大切な人を失ったのだから仕方ない」 「とても疲れていたゆうちゃん のたった一度の過ち。」 「かawaiiそう」 - WSに記入する	

展	・ネームプレート を黒板に貼る ・発表させる ・資料「償い」の 後半部分から資料 を理解する ・生徒相互の 学び合い ・被害者の奥さん が許した理由を 発表し合う。 ・他者の意見を聞 く ・影響を受けた意 見を書く。	35	「許せる」への発問 大切な人、家族を殺されて本当に 許せるのか？ ・判断理由は必ず書 かせる。 「許せない」への発問 わざとではない。たった一度の過ち 誰だってあるだろう。 ゆうちゃんはなぜ仕送りを続けるこ とができたのか？ ②被害者の奥さんは、なぜ許したの だろうか？ 判断理由の共有（考えを比べる） 練り合い（自己の判断基準の確認） 今日の授業で、あなたの考えに。 一番影響した意見を書いて下さい	・人の意見を聞きながら、自 分はどのような基準で判断する かを考えさせる ・揺さぶりをかける 「反省している」 「まじめ」 「償いたいから」 「7年間も欠かさず仕送りを続 けた」 「人生を賭けて償おうとする誠 実さを感じたから」 ・自分の意見を全員発表する ・影響された意見とその理 由を必ず書く。
ま と め	・ある裁判官が少 年犯へ判決時に 述べた実話を 紹介 ・授業のまとめ	10 分	前向きに誠実に生きることが、たと え償えなくても大切であり、人間と して気高い生き方ではないだろうか。 皆さんにも似たような経験はない だろうか？ ・クラスの日々の生 活に置きかえる。	・誠実な生き方とは何か。

(7) 板書計画



(8) 座席表（省略）

全体研修会② 2年A組 道徳授業リフレクション

平成25年9月19日（木）授業者：松田 直人

1 授業の振り返り（授業者：松田直人先生）

道徳の価値項目3-3 人間の弱さの克服ということでいろいろアドバイスをもらい「償い」という資料を使用した。映像を使うか迷ったが、生徒に印象づけるため使用した。時間がおして考える時間が足りなかった。補助資料を使い誠実に行動することが大切というところまでもっていきたかった。後半部分に時間をかけ、班の発表や今日は何が学べたかまで持っていきたかった。

2 研究協議（参観者から）

(1) 稲嶺尚幸先生（A班）

『被害者の奥さんはなぜ許す事ができたのだろうか？』という所でY君が「7年間も追い詰められて精神的にきつい」という発言をしていたが、その発言が班内で拾われず、聞き合いが出来なかったのがもったいないと感じた。テキストから答えを見つけ出そうと、テキストと向き合っていたのが良いと感じた。

(2) 吉武佳穂先生（A班）

役割分担も話し合いも自然な流れでスタートし、意見を伝えやすい雰囲気だった。Y君の意見は「許せない」だったが、「ゆうちゃんは7年間自分を追いつめた。その想いが伝わった」とゆうちゃんの立場で考えていた。全員で意見を交換し合っていたので、誰か一人の意見に対して自分の考えや疑問を言う時間や行動があれば、より深く考えることができると思った。

(3) 東江敏也（B班）

ユーチューブでの映像で前半が終わると、M君が机に横たわり、眠っていると思ったら資料をずっと見つめていた。後半の映像が流れると体を起して映像をじっと見ていた。そのときに教材と向き合っているということがわかった。最後の意見のすり合わせの時に、直人先生がM君にグッドタイミングで支援に入り、ヒントを与えた時、グループ全体で考えを聴き合っていた。その後話し合いをして意見をまとめようとしたときに学びが発生していた。

(4) 與那嶺紀子先生（B班）

B班は、M君が最初なかなか集中することが出来ませんでした。司会のMさんがリードしてうまく話し合いを進めていました。その中で、許せるか許せないかの話しの時に、M君が「許せない」理由に、「だってゆうちゃん殺されたんだよ」と言ったら、全員が一瞬、エッ！？っていう表情をしたけど、間違っているとかは言わずにやさしく「ゆうちゃんは殺してしまったんだよ」とみんなが教えてくれていました。その後の話し合いの場面では、真ん中に置いた記録用紙を見ながら、全員の身体を寄せ合って話しをしながら意見を言っていて学び合っているなと思いました。

(5) 伊藝正乃先生（C班）

C班は、Yさん、Kさん、S君、T君の4人でした。初めのビデオではYさんが爪を触ったり集中力が見られなかった部分があった。

班になった時にはKさんが最初の発問である「ゆうちゃん、許せる？」を再度、班のメンバーに聞いていた。それに対し、Yさんも「死んでしまっているから許せない」と答えていた。Kさんは男子の意見も聞いていた。S君だけが「反省しているので、許せる」という自分の考えを最後まで貫いていた。生徒によってとらえ方が違うので勉強になった。班活動ではT君が司会を引き受け、みんなの意見を聞いていた。全体での発表でS君はワークシートに記入をしていなかったが、「許せる」という想いをすぐに述べていた。生徒自身がもっとみんなの意見を聞きたいという資料だったと思う。

(6) 佐藤繁先生（D班）

グループ活動の時にそれぞれがプリントに書いたものを発表して、後は1人の生徒がボードにまとめていく形で進んでいた。グループで共有にさせるには、話し合いの内容を変えればもっと先生の目指す本質に迫る話し合いに持っていけたのではないかな。この題材の力はすばらしい。

(7) 波照間香織先生（E班）

R君は、前半の映像はしっかりと見ていて、判断もしっかりと書いていた（境界線から「許せない」に向かって1cmくらいの所）が、判断理由を書くことができなかった。しかし、後半の映像が流れている最中にいつの間にか判断理由を書いていて、そこから集中しだしたように感じた。また、K君は個人で黙々と課題をこなすタイプであるが、今回はグループにした時、自分から進んで司会や記録を決めようとしたり、笑顔で話しかけたりしていて普段では見られない姿が見られた。Yさんも物静かでしゃべることはないが、しっかりと教材と向き合っていて考えていた。

ただ、役割分担をしたのにもかかわらず司会が話し合いを進めるわけではなく、一人ひとりにシートを回して自分自身で記入するだけになってしまった。

(8) 比屋根渚先生（G班）

I君が今にも眠りそうなT君に対し、「寝るなよ！頑張れ！起きれ！」などの声かけを行っていた。T君はその声かけに応え、頑張っていた。しかしながら、T君がやる気を出し授業に追いつこうと色々質問するが、その質問内容が取りくんでいる課題と大きくずれていたのか、誰も質問に応じなかったのがとても残念。聴き合いが起っていたというよりも、個人でワークシートを埋めることに時間を費やしていた。

(9) 久高利美子教頭

資料の持つ力は大きいということを、今日の授業からは伝わった。生徒を引きつける内容であり、また映像を使うことでしっかりと生徒に入っていた。価値観・生徒の実態をしっかりと把握している。一つ目の発問で、「考える」ということに入り込めたが、今日の授業の山場であり、またしっかりと考えて意見を交流して欲しかった2つ目の発問とまとめの時間が十分確保されていなかったのが残念である。自分の言葉できちんと伝えるという関係を築いていきたい。「誠実に生きる」という価値観について事後も担任と生徒達のやりとりを期待したい。

3 指導助言

(1) 宮城尚志指導主事（国頭村教育委員会）

道徳は学び合いではなく互いの考えをすりあわせる。発言は、「教師2：生徒8」が理想だが、今日は「教師9：生徒1」という聞かされる状況に陥っている。教師にエネルギーがあり、教えたいたいことが多い授業だった。もっと、生徒の話を聴く。今日の発問は「ゆうちゃんをどう思うか。7年は長いのか、奥さんは許したのか」の3つでいいと思う。

視覚教材は、使用して正解で生徒が食い入るように見ていた。許せる、許せないというだけでなく、どちらでもないという答えも設けてほしい。

生徒に関して。M君→姿勢は悪いが書き始めている。Yさん→みんなとは違う？という雰囲気を持っていて班に入れていないのでは。K君→1年生の頃と比べると周りとのかわりは、よくなっている。S君→輝いて見えた。

生徒の意見から投げかけるのも良い、正解を求めようとせず子どもに時間をあげた方が良い。

(2) 千葉康成指導主事（国頭教育事務所）

聴き合う関係作りに視点を置いて：

子どもの言葉を教師が繰り返していたことを減らす。言葉を繰り返すと生徒声も小さくなり、教師が繰り返すので生徒の発言を聞かなくなる。

影響を受けた人の意見を最後にかくことを最初で言う、生徒の言葉をつないでいく、別の子にフォローさせる、補う、つなぐという意識を持つ。

発問の質をあげるとつながる。イエス、ノーで答えられる発問ではないものを準備することが道徳では大切。

例えば、過ちは許されないのか？償えないのか？奥さんにゆうちゃんのどんな気持ちで伝わったのか等を用意するとねらいに迫れたのでは？

指導案のねらい、価値観など書き方が優れている。年計通りに行うものだが、より大きな効果が期待できれば学年等で相談し変更しても良い。

道徳では内面を指導し、道徳的実践力の育成をする。心のノートや今日配布した資料を活用してほしい。

学年研修会④ 1年A組 国語科授業デザイン

授業者 伊藝 正乃

- 1 日 時 平成25年10月23日（水）4校時
- 2 単元名 「百年後、千年後の友人であるあなたへ『東海道中膝栗毛』」
- 3 ねらい 歴史的仮名遣いに気づき，現代仮名遣いに直し，歴史的仮名遣いの決まりに気づく。
- 4 授業の流れ
 - (1) 目標の確認→課題提示（コの字）
 - (2) 共有の学び（コの字→グループ）
 - ①『東海道中膝栗毛』を音読する。
 - ②歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す。→CDを聴いて確認する。
 - (4) 全体でのすり合わせ（グループのまま黒板を向いて）



学年研修会④ 2年B組 保健体育科授業デザイン

授業者 比嘉 司

- 1 日 時 平成25年10月23日（水）3校時
- 2 单元名 「障害の防止（自然災害に備えて）」
- 3 ねらい 自然災害の被害について理解し、どのような備えが必要かを考える。
- 4 授業の流れ
 - (1) 目標の確認→課題提示（コの字）
 - (2) 共有の学び（コの字→グループ）
「3.11」の地震・津波の映像を見ながら自然災害の被害について考える。
 - (3) 全体でのすり合わせ（グループのまま黒板を向いて）
 - (4) ジャンプの学び（グループ）
沖縄大震災を想定して、被害防止の備えについて考える。
 - (5) 全体でのすり合わせ（グループのまま黒板を向いて）



学年研修会④ 3年B組 数学科授業デザイン

授業者 神山 康平

- 1 日 時 平成25年10月23日（水）1校時
- 2 単元名 「関数 $y = ax^2$ 」
- 3 ねらい 関数 $y = ax^2$ の変化の割合を求めることができる。
- 4 授業の流れ
 - (1) 目標の確認→課題提示（コの字）
 - (2) 共有の学び（コの字→グループ）
 $y = 2x^2$ について、 x の値が1～4まで増加する時の変化の割合を求める。
 - (3) 全体でのすり合わせ（グループのまま黒板を向いて）
 - (4) ジャンプの学び（グループ）
 $y = ax^2$ で、 x の値が $p \sim q$ まで増加する時の変化の割合の公式を考える。
 - (5) 全体でのすり合わせ（グループのまま黒板を向いて）



研修報告①

報告者 與那嶺紀子・伊芸正乃

1 訪問日 平成25年7月2日（火）

2 訪問先 静岡県富士市立元吉原中学校

3 日程

(1) 事前説明会 授業参観の視点の説明

① 班活動をする必要があるのか。

② 学びから逃げている生徒をどうするのか

(2) 中心授業

第5時 13:40～14:30

2年2組 理科 授業者 井出 康裕

(3) 研究協議・講評 助言者 佐藤 雅彰



4 中心授業について

感覚器官によって受け取られ刺激が中枢神経に伝えられ、脳から出た命令は、運動神経を通して、運動器官に伝えられて運動が起こることを学習した生徒が、筋肉の働きと、つき方を知り、どのような仕組みで運動するか考えることをねらいにしている。

教師が海辺で拾ったという生き物の骨を見せ、この骨を取り巻く筋肉がどのようなになっているのかということを導入で生徒に投げかけていた。

そして、どのように筋肉が働いているのかを発問し、「自分の腕がどのように曲がるのか実際にその時に使っている筋肉はどこか」を班になり考えていた。班により差はあるが各々が班になり、自分の腕を曲げて「ここは、こうなっているね。」「ここの筋肉がのびているね。」など気づいたことをつぶやいていた。

その後、教師が人格骨格模型、バケツにいった水的具体物を用意し、「実際に触れて考えてよい」という声かけをすると、課題に積極的に取り組んでいる班は、すぐに前に出て班で「ここの筋肉が・・・」と考えを深めていた。

その上で、自分の身体を再度資料として確認させ、腕の描かれた用紙にどのように筋肉が動いているのか記入させ、発表させていた。そして、教師の準備したTP資料で確認していた。

学級では目立たない生徒にバケツの水を持たせ、筋肉の動きをデモンストレーションしたり、生徒に説明させる場合は生徒が発言するまで待ち、生徒の言葉で発表させる等、しっとりとした雰囲気と細やかな配慮が随所に見られた。生徒も、聞くときの姿勢が素晴らしかった。

5 佐藤雅彰先生の講評

(1) 具体物を提示し、実際に体験させる。

(2) 気になる生徒がいる場合はすぐに支援する。(他の生徒とつなぐ等)

(3) 普段から生徒がどこでつまづいているのか各教科と情報交換する。

6 参加しての感想

授業の前に事前に時間が取られていて、前回の校内研修で課題となった視点をふりかえり、授業の説明と今回の授業では、この視点で見てくださいという説明があった。しっかりと前回の校内研修の課題も振り返りながら授業参観ができて、どの視点でみたらいいのかもわかりやすくよかった。これからの研修にも取り入れるといいなと思いました。いろいろな授業を見ることができてとても勉強になりました。ありがとうございました。

研 修 報 告 ②

報告者 津波古 健・神元 勉

1 訪問日 平成25年7月16日（火）

2 訪問先 茨城県常陸太田市立峰山中学校（生徒数248名）

3 日 程

(1) 一般授業公開（3・4校時）10:40～12:30

(2) 学年別提案授業（5校時） 13:30～14:20

1年1組 音楽（鈴木美奈子）「混声3部合唱」

2年1組 美術（小松崎洋孝）「名画の謎に迫ろう～ミレー作『落ち穂拾い』」

3年1組 技術（浅野 勝好）「プログラムによる計測・制御」

(3) 学年別研究協議 14:40～16:00

1学年講師 杉山 二季（駒澤大学講師）

2学年講師 北田 佳子（埼玉大学准教授）

3学年講師 岩本 泰則（茨城・学びの会）

(4) 全体協議 16:10～16:50

講話「教科の本質に迫る学習課題」埼玉大学准教授 北田佳子

4 参加しての感想

2011年に完成したばかりの新しい校舎で、自転車やクツが整然と並べられています。また、各教室の横には、ゆったりとした空間(写真④オープンスペース)があり、大変うらやましく思いました。

10名余の参観者には、給食(写真⑤)を提供していただきました。

3・4校時の一般の公開授業の後、5校時には、学年別の提案授業(1年音楽、2年美術、3年技術)があり、私たちは、1年生の音楽の授業を参観し、研究協議にも参加させていただきました。

男子がテノール、女子がアルトとソプラノのパートに分かれて、強弱記号に着目し、どのように表現するかを話し合い、それに基づいて各パートで練習するという展開でした。どのパートもお互いに寄り添いながら、知恵を出し合って学び合う姿が印象的でした。また、講師を3名も招聘し、学年別に研究協議ができる環境は、大変うらやましい限りです。

研究歴は本校と同じ位ですが、どの教室でも真剣に学び合う学びの姿が見られ、大変有意義な収穫の多い研修でした。



写真① 正門から



写真② 自転車置き場



写真③ 靴箱



写真④ 教室横のスペース



写真⑤ 給食



写真⑥ テノール



写真⑦ ソプラノ



写真⑧ 学年別研究協議

研修報告 ③

報告者 渡慶次 靖・神元 勉

1 訪問日 平成25年10月18日（金）

2 訪問先 宮古島市立北小学校（児童数286名）

3 日 程

(1) 一般授業公開

低学年授業公開（2校時）

中学年授業公開（3校時）

高学年授業公開（4校時）

(2) 代表授業（5校時）

4年2組 国語（根間大輔）「ごんぎつね」

(3) 学年別研究協議会

講師 村瀬 公胤（麻布教育研究所長，名護市教育委員会学校教育特任アドバイザー）

永島 孝嗣（麻布教育研究所）

宮城 尚志（国頭村教育委員会指導主事）



4 参加しての感想

5月の本校の公開授業研究会に北小から多くの先生方に参加していただいたお礼と激励を兼ねて訪問しました。

校舎は、2010年11月に完成したという新校舎で、広々とした間取りにびっくりしました。ろう下も通常の2倍ぐらいの幅があり、とてもうらやましく思いました。

さて、低学年の教室の様子が写真①②です。低学年は「べっちょり型」で机の隙間が小さくなっています。中・高学年のグループはT字型になっていました（写真③）。午後の4年生の代表授業が写真④～⑧です。

担任の先生は、まだ採用2年目ですが、実にテンションが低く、しっとりとした授業をしていました。どの教室でも発言者に向けられる視線が温かく、聴き合いが徹底していて、しっとりと学び合う姿が印象的でした。わずか半年で、ここまで築き上げてきた北小学校の校長先生を始め、先生方の同僚性に逆に私たちが元気づけられました。村瀬先生や永島先生ともお目にかかれて、大変有意義な視察研修でした。



写真①



写真②



写真④



写真⑤



写真③



写真⑥



写真⑦



写真⑧